

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **89** 2024
夏号

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.32

オートファジー・抗老化研究センター設立記念
キックオフシンポジウムを開催し、
ノーベル生理学・医学賞受賞者 大隅良典氏に
基調講演をいただきました【後援】



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.32	3
令和5年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	4
MBT 研究所だより (第33報)	5
国際交流センターだより vol.16	6
図書館だより	8
働き方改革だより	9
看護部の紹介	10
先端医学研究支援機構だより	10

Topics

Campus News

がん診療における情報の非対称性に対応するためのツールについて	11
オートファジー・抗老化研究センター設立記念キックオフシンポジウムを開催しました	12
English First Aid	13
MBT 研究所運営会議を開催しました	14
高度生殖医療センター開設記念シンポジウムを開催しました	14
MBT 特命教員による医学部生への特別講義	15
奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が共同研究講座を設置しました	15
ワシントン大学医学部の今井眞一郎先生にご講演いただきました	16
白衣授与式を開催しました	16
大学院看護学研究科のオープンキャンパス2024を開催しました	16
体験型大和漢方医学薬学セミナーを開催しました	16
奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	17
公的研究費の適正使用に係る研修会を受講してください (Web 動画)	17
外科マスター・治療パイオニアの称号付与について	17

Winner Report

第241回日本内科学会近畿地方会において若手奨励賞を受賞しました	18
第41回奈良県公衆衛生学会で最優秀演題賞を受賞しました	18
第120回日本精神神経学会学術総会シンポジウム組織発表賞を受賞しました	18
第49回日本脳卒中学会学術集会 (STROKE2024) にて学会賞 (基礎部門) を受賞しました	18
インプラント治療の功績が称えられ、表彰されました	19
上原記念生命科学財団研究奨励金を受賞しました	19
第243回日本内科学会近畿地方会 若手奨励賞で優秀演題賞を受賞しました	19
第11回日本区域麻酔学会最優秀演題賞を受賞しました	19
厚生労働大臣より感謝状：国の新型コロナウイルス感染症対策への貢献	20
第35回日本臨床モニター学会で奥秋記念賞を受賞しました	21
国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞されました	21
国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました	21
第55回奈良外科学会学術大会で優秀演題賞を受賞しました	21
令和6年度日本病院薬剤師会学術奨励賞を受賞しました	22
第2回「仲景杯」全国学生漢方選手権大会優勝！	22
第31回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	22
第13回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	23
[Newsweek] による「Best Specialized Hospitals Asia-Pacific 2024」の整形外科部門で奈良県立医科大学附属病院が選出されました	23
奈良県立医科大学医学部医学科同窓会海外留学助成金 厳檀学術奨励賞受賞者決定	23
23rd International Conference on Emergency Medicine 2024 Taiwan で Excellent Award を受賞しました	23
横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました	24
令和6年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	24

Information

大学院入試日程	29
未来への飛躍基金だより	30

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	31
編集後記	31
メディア掲載情報	32

奈良医大の存在感を高める重点戦略

理事長・学長 細井 裕司

奈良医大が日本において存在感のある大学であり、高い評価を受け続けるためには、重点戦略を次々と定め、それを迅速に実行していく必要があります。理事長・学長からのメッセージ vol.30 (本年 2 月) においても「奈良医大の存在感を高める重点戦略」について述べました。本号においても関連する 2 つの話題を取り上げます。

1. 大学等連携推進法人の設立

・ 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学と公立大学法人奈良県立医科大学は、大学等連携推進法人の設立を目指すことになりました。概要と説明を以下に示します。

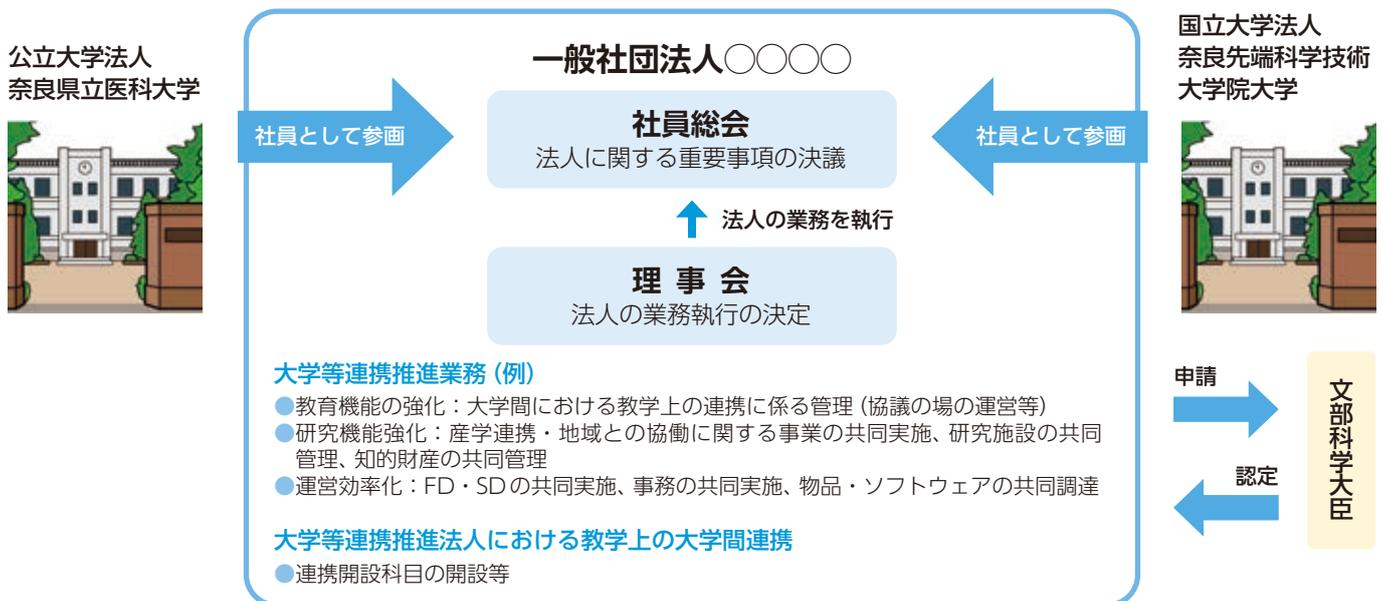
1) 制度の概要

- ① 大学等の緊密な連携を効果的に推進することにより、教育研究の充実を図ることを目的とする。
- ② 大学の設置者等 (今回の場合、公立大学法人奈良県立医科大学と国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学) を社員とする一般社団法人であって、連携推進業務を主目的とするものを文部科学大臣が大学等連携推進法人として認定する。
- ③ 大学等連携推進法人の社員の大学間では、連携開設科目を設定することが可能となる。相手の大学が開設した連携開設科目について、自ら開設したものとみなす (大学設置基準の「自ら開設の原則」に対する特例措置)。

2) 連携法人の説明

- ・ それぞれの大学が現状を保ったまま、第3の法人 (一般社団法人) を設立し、連携を強化するものです。その仕組みを図に示しました。
- ・ 奈良先端大との連携は、10年以上前に協定が締結されていましたが、実質的活動はありませんでした。数年前に奈良医大から先端大に対し、医工連携によるお互いの研究・教育能力の向上を図るために共同活動の活性化を提唱し、共同の研究項目、教育での連携など、共同活動が活発化しています。
- ・ 今回、これをより一層充実させるため、両大学で「大学等連携推進法人」の制度を活用することにしました。
- ・ すでに全国で8つの同法人が設立され、活動を開始しています。
- ・ これによって、医工連携がより促進されることを期待しています。

大学等連携推進法人の仕組み



2. AIの積極的導入

奈良医大において、人工知能 (AI) を積極的に取り入れることで、教育、研究、そして臨床の全ての分野で革新的な変化をもたらすことを目指します。

教育の場では、AIを活用したシミュレーション教育により、学生はよりリアルな臨床経験を積むことができます。患者に接する前に高度なスキルを習得することが可能となり、医師の育成に貢献します。また、個々の学生の学習進度を細かく分析し、最適な学習プランを提供する AI ツールの導入も有効だと考えています。

研究においては、ビッグデータ解析などで AI がその能力を発揮し、従来の方法では見逃されがちなパターンや傾向を発見す

ることができます。これにより、研究の質の向上が見込めます。

臨床の現場でも AI の導入は進んでいます。AI を活用した診断支援システムは、医師の診断を補完し、診断の精度を高めることができます。また、患者の電子カルテを AI が分析することで、最適な治療法の提案や予後の予測が可能となり、個別化医療の実現に寄与します。

積極的に導入する一方、AI 導入の課題についても考慮しておく必要があります。技術の進化に伴う倫理的問題やデータの取り扱いに関する課題をクリアすることが求められます。本学では、これらの課題に対しても真摯に取り組み、安全で信頼性の高い AI の活用を推進していく所存です。

令和5年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

令和5年度決算 収益/579億6,296万円(+3億8,167万円) 費用/593億8,188万円(+27億8,891万円)

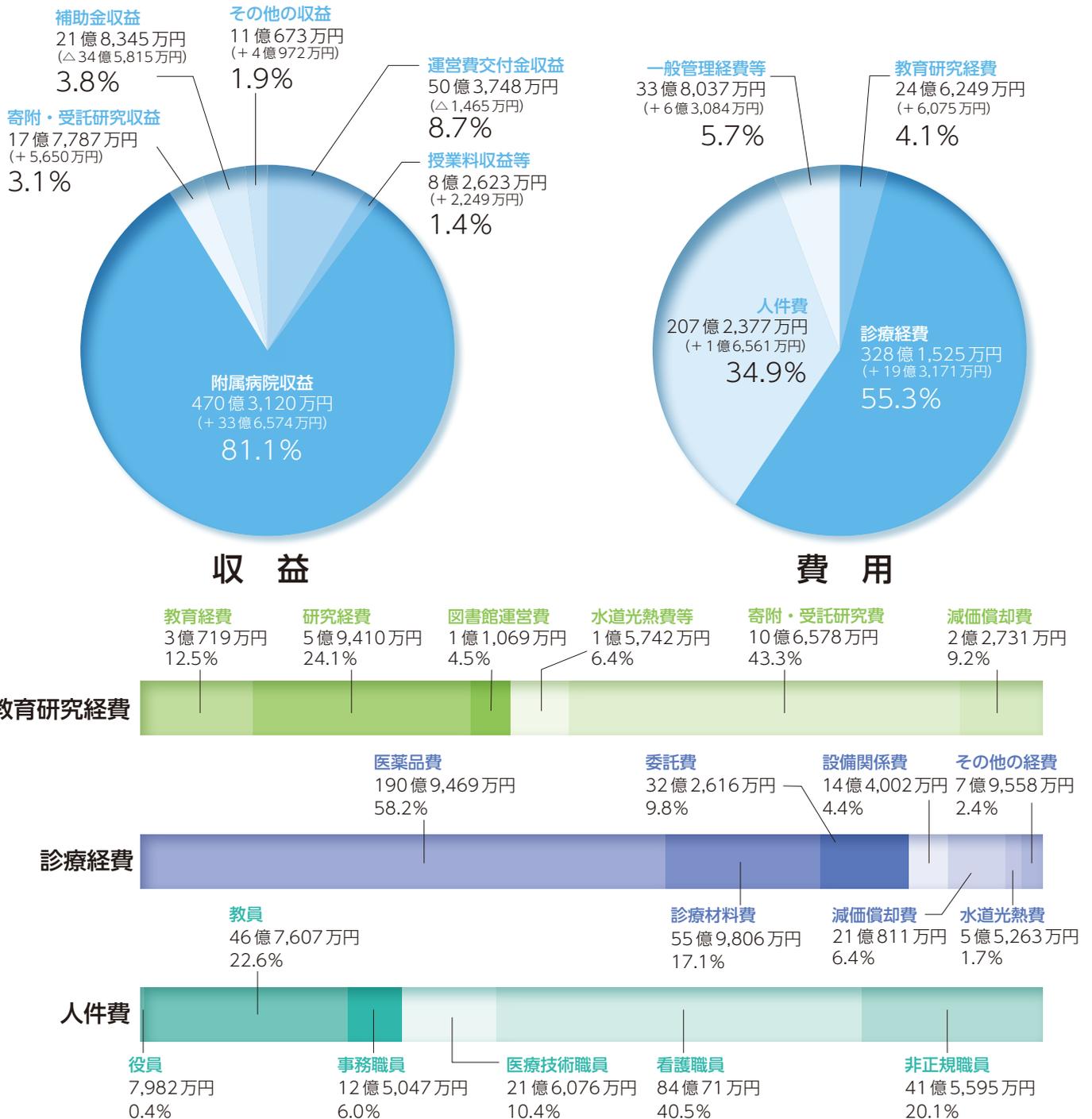
差引 14億1,892万円の赤字(R4 9億8,832万円の黒字)

※ () 内は前年との増減額

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症患者の受入に伴う患者抑制の影響もありましたが、病床運用の効率化等による入院単価の増、外来患者数の増加等により附属病院収益が増加しました。一方で、病床確保料等の新型コロナウイルス感染症に関連する補助金収益が減少したことなどにより、14億円の赤字となり、昨年度の9億円の黒字から大幅に減少しました。

今年度は附属病院収益の増収は見込めるものの、一方で、人件費や診療経費等の増加が見込まれ、経営状況が厳しくなることが予想されます。

皆さまには引き続き経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力をよろしくお願いいたします。



令和5年度は、一般財団法人弘済会から、2,000万円の助成を受け、病院施設の各所改修などを行いました。

1. 研究センターへの広報支援

4月1日に、本学に新たに2つのセンターが設置されました。これらのセンター設立をアピールするため、MBT研究所が広報に関し支援を行いました。

(1) オートファジー・抗老化研究センター

4月16日、本学は奈良県コンベンションセンター天平ホールで300名近い参加者のもと、キックオフ記念シンポジウムを開催しました。



シンポジウム全景

来賓の山下真奈良県知事からは不老につながる成果に期待するとの挨拶がありました。基調講演では、ノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典東京工業大学栄誉教授から酵母を用いたオートファジーメカニズムの発見物語の紹介がありました。オートファジー・抗老化研究センターの中村修平センター長からは、今後はヒトの抗老化に踏み込んだ研究を進めていくとの講演がありました。



大隅良典先生による基調講演

会場には、オートファジーを活用した抗老化研究や関連機器が今後成長ビジネスに展開するとの期待から全国の大学、企業からの多くの参加者が見受けられました。

また、MBT コンソーシアムは今年度より中村修平教授と連携して「抗老化部会」を立ち上げました。

また、MBT コンソーシアムは今年度より中村修平教授と連携して「抗老化部会」を立ち上げました。

(2) 高度生殖医療センター

5月9日、奈良県庁で、高度生殖医療センターセンター長の吉川公彦病院長、副センター長の木村文則教授が、TV局2社、新聞7社に対し高度生殖医療センターの開設を紹介する記者会見を行いました。



記者会見の様相

続く5月11日、本学、MBT コンソーシアムは奈良県コンベンションセンター天平ホールで200名を超える参加者のもと、開設記念シンポジウムを開催しました。

来賓の山下真奈良県知事からは、不妊治療の助成、補助は知事の公約事項であり子供を望む夫婦に希望を持たせる高度生殖医療センターの役割に期待するとの挨拶がありました。引き続き木村文則教授による基調講演、小児・AYA世代がん患者の生殖医療を専門とする聖マリアンナ医科大学産婦人科学講座鈴木直主任教授の特別講演が行われました。また、不妊治療、がん・生殖医療の充実に向けてパネルディスカッションが行われました。



山下知事の挨拶



講演する木村文則先生

2. 在宅遠隔医療部会在宅看護分科会

(1) 事例検討会

3月2日、「わい和いNARA在宅サポート研究会」の事例研究会が約30名の参加を得て開催されました。「わい和いNARA在宅サポート研究会」は、奈良県の在宅サポートの在り方を研究する



グループ討議の様相

目的で、2018年に在宅看護学小竹久実子教授が会長となって立ち上げた研究会です。事例提供では、①医療的ケア児を受け入れる立場から、現場の現状や課題が、②医療的ケア児を送り出す立場から、送り出した後の在宅訪問の現状と課題が報告されました。その後参加者はグループに分かれ提示された課題について意見交換を行いました。

(2) 研究発表会

6月1日、「外来から地域へ！いのちと暮らしに伴走するケア」をテーマに、約100名の参加を得て、研究発表会が開催されました。本研究会大会長の石飛悦子看護部長は、多職種の良好な連携構築にはお互いの価値の理解と礼節を重んじて相手を敬うこと、また人のケアには自らの幸せと高いWell-Beingを保つことが重要と述べられました。

シンポジウムでは、訪問看護や在宅ケアの最前線に就く皆様から体験や課題が語られ、パネルディスカッションでは課題解決策が論じられました。



パネルディスカッションの様相

国際交流センターだより vol.16

ボツワナ共和国からの国費留学生（未来基礎医学）

4月に来日した Gofaone さんは、2025年4月の大学院博士課程進学に向け、現在は医科学研究生として研究に励んでいます。

Gofaone Rantsimele（ゴファオネ・ランティメル）

Hello, my name is Gofaone Rantsimele, and I am thrilled to be a part of the vibrant community at Nara Medical University. Life in Japan has been an incredible journey of cultural enrichment and professional growth. The harmonious blend of tradition and modernity in Japan has been truly inspiring.

I chose Nara Medical University for its outstanding reputation in medical research and education. The university's commitment to innovation and excellence aligns perfectly with my own aspirations. My research focuses on chemotherapy drug exposure duration (less than 0.5h), whether it decreases the ability of chemical tongues to monitor cancer treatment response, which aims to offer a promising alternative for non-invasive and real-time monitoring of chemotherapy efficacy through the analysis of cell culture supernatants. The resources and support available here have been instrumental in advancing my work.

Living in Nara, with its rich historical heritage and serene landscapes, has been a unique and enriching experience. The warm and welcoming community at the university has made my stay even more enjoyable. I am grateful for the opportunity to contribute to and grow within this esteemed institution.



未来基礎医学 准教授 森 英一朗

未来基礎医学では、この4月から、ボツワナ共和国からの留学生 [ゴファオネ (Gofaone Rantsimele)] を受け入れています。ゴファオネからの連絡を受けたのは、2023年8月頃です。送られてきた書類には、在ボツワナ日本国大使館からの選考合格証明書（文部科学省の国費外国人留学生の枠）が付けられておりました。今までに無い形での留学生の受け入れで初めてのことばかりですが、ゴファオネが来たことで研究室に新しい風を送り込んでくれています。



2023年度海外リサーチ・クラークシップ報告会を開催しました（4月30日）

医学科2年生の海外リサーチ・クラークシップ（2024年1月4日から3月5日）で、研究留学していた8名（現医学科3年生）による報告会が行われました。

8名のプレゼンは、充実感と自信に満ちあふれており、嶋医学部長も、その成長した姿にとっても感動しておられました。この日は、海外での研究に興味のある下級生も参加し、その体験談を熱心に聞いていました。



カンボジアからのドクター

カンボジア・サンライズジャパン病院の、Meang Pipunnpoir (メン・ピポンポー) 先生が2024.5.20-8.23の期間で、救急科、放射線科、麻酔科にて研修を行いました。麻酔科では、臨床修練制度(※)を利用して、診療行為を伴う研修を行うことができました。
 ※日本の医師免許を持たない外国人医師等に、厚生労働省の審査・許可を受けたうえで、医療行為が認められる制度。

Meang Pipunnpoir 先生 サンライズジャパン病院 (カンボジア) 2024.5.20 ~ 8.23

Firstly, I would like to Nara Medical University to accept this opportunity for me to come to training as a Medical Doctor here.

This is my first time in life for abroad training with fulfilled for living in abroad, getting to know Japanese culture with living style and communicate with Japanese people. Most of the Japanese are kind, friendly and helpful people if compare to other country. Japan is a safe country once that I never experience before.

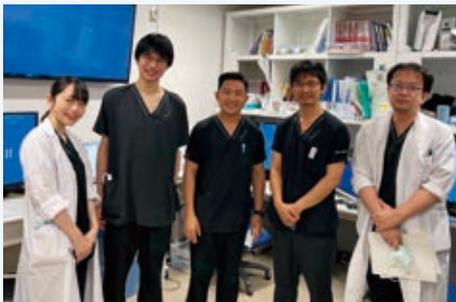
Once of my medical training started, I really surprise of many new things related to medical field in Japan, there are so many medical modalities for student to practice and for life saving. Nara medical university hospital staff and professor are friendly and kind as well as also helpful for sharing their skill and experience to me. They treat us as their staff or family.

I wish to come back again in another chance of learning and longer training.

Respectfully to Nara Medical University staff and top management for this approval for me.



放射線・田中教授と



放射線科のみなさんと



麻酔科のみなさんと

救急医学 教授 福島 英賢

カンボジアの首都プノンペンから Dr. Poir が当院高度救命救急センターに研修に来られました。Dr.Poir は医師6年目で、Sunrise Japan Hospital Phnom Penh という日系の病院で勤務されている救急医です。当院に導入されたハイブリッドERシステムでの診療など、多くの重症患者の診療を経験していただきました。



救急科のみなさんと (白衣がご本人)



ドクターヘリ

令和6年度 (第1回) 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

令和6年度 若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の4名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、20万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

募集は年3回、次の募集も予定しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
腎臓内科学	医員	玉城 裕行
微生物感染症学	大学院生	北川 大輔
病理診断学	医員	安藤 冴佳
リハビリテーション医学	診療助教	岡本 公一

機関リポジトリGINMU (ジズム) で論文をオープンアクセスにしませんか？

機関リポジトリ「GINMU」とは

機関リポジトリ (Institutional Repository) とは、学術機関に所属する研究者の論文を収集・保存し、無料で公開するデータベースです。

本学で2008年に開設した機関リポジトリが、GINMU (Global Institutional repository of Nara Medical University) です。2013年以降は博士論文の公表が義務化されており、GINMUでご覧いただけます。

GINMUへ論文を登録する3つのメリット

- ① GINMUへの登録によって、オープンアクセス (OA : Open Access) 出版の論文掲載料 (APC : Article Processing Charge) を支払うことなく無料で研究成果をWeb上に公開できます。
- ② メタデータ (論題や著者名、抄録など、文献の二次情報) を付与するため、検索されやすくなります。
- ③ 国立情報学研究所や国立国会図書館との連携により、論文情報が定期的にWeb上で自動収集され、CiNii (国立情報学研究所の学術情報サイト) や国立国会図書館デジタルコレクションなどのデータベースにも反映されます。

それらの結果、論文がより多くの人の目に触れることになり、引用率の向上を期待することができます。

オープンアクセスとは

論文のオープンアクセス化とは、査読付きの学術雑誌等に掲載された論文を誰でもインターネットから時間や場所の制約なく無料でアクセスし入手できるようにすることです。利点としては、引用される可能性が高まること、研究成果を社会に還元できることなどがあります。

OAは国の政策でも推進されており、将来的には、公的資金によって生み出された研究成果の即時OA化を義務付ける方針が示されています。

OAを実現する方法としては、主に学術雑誌を通じたOA (ゴールドOA)、機関リポジトリを通じたOA (グリーンOA) の2通りあります。

ゴールドOAは、OA論文を掲載している学術雑誌に、著者側がAPCを支払って、論文をOA化する方法です。

グリーンOAは、論文掲載後に機関リポジトリで論文等の研究成果をOA化する方法です。機関リポジトリによるOA化に、原則APCの支払いは発生しません。GINMUを利用したOA化もグリーンOAに含まれます。

GINMUへの論文登録にあたっての注意事項

大部分の学術雑誌は、出版社のルールにより、著者が自著論文を機関リポジトリで公開することを一定条件の下に認めています。公開を許諾する論文のバージョンは、通常、出版社が作成したPDFファイルまたは、著者自身が投稿時に作成した著者最終稿のいずれかになります。なお、雑誌によっては、機関リポジトリでの公開を禁じていたり、出版後一定期間は公開を制限していたりする場合があります。

GINMU アクセス方法

下記のいずれかの方法をご利用ください。

- ① 当館トップページ → 下にスクロールして左端「GINMU (機関リポジトリ)」
- ② Googleなどの検索サイトで、「ginmu」または「GINMU」で検索

GINMUへの論文登録方法

論文データと、GINMUトップページからダウンロードできる「登録申請・取扱許諾書」を図書館に提出してください。図書館では機関リポジトリへの登録を随時受け付けておりますので、この機会にぜひご検討ください。

参考資料：独立行政法人 日本学術振興会、論文のオープンアクセス化とは？ [internet]

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html [accessed 2024-06-13]



GINMU トップページ



メタデータの例

手塚治. 奈良医学雑誌. 1960; 11 (5) : 719-735.

働き方改革だより

★令和5年度職員満足度調査 結果報告

調査 (実施期間: 令和6年2月5日～3月4日) の結果について、一部をご紹介します。

ワークライフバランスについて

全体では、**約40%が満足・ほぼ満足**と回答
研修医の満足度が約10%**上昇**

満足+ほぼ満足と回答した割合	R4	R5
全体	40.4%	40.3%
臨床研修医	58.8%	68.4%

ワークライフバランス向上に向けた取組

休暇・休業制度の対象が、見直し・拡充されました (令和6年4月)

対象: 正規職員に加え、契約専門職員、嘱託職員、医員及び臨床研修医、時間雇用職員、教室職員を追加
令和6年3月28日人事課通知参照

特別休暇の拡充

- | | |
|-------------|----------------|
| ・交通機関不可抗力休暇 | その都度必要と認められる期間 |
| ・裁判員等呼出休暇 | その都度必要と認められる期間 |
| ・ドナー休暇 | その都度必要と認められる期間 |
| ・ボランティア休暇 | 5日以内/年 等 |

部分休業の取得条件見直し

育児休業を取得していることを条件としていたものを撤廃

仕事のやりがいについて

「現在の仕事にやりがいを感じている」の設問に
約半数が**とても・ややそう思う**と回答

「よりやりがいを感じるために必要なこと」として
回答が多かったものは、

- ・業務内容や成果に相応した評価や手当の支給 (62.5%)
- ・良好な人間関係 (49.4%) でした。

職場の人間関係をより良好にするために有効な方法の第1位は
「**気軽に相談できる機会を作る**」
でした。日頃のコミュニケーションが大切ですね!



医師の働き方改革の取組について

「医師の業務の見直し」「他職種へのタスクシフト」が同率 (49%) で一層取り組む必要があるとの結果でした。
医師労働時間短縮計画に基づき、労働時間短縮・業務効率化に向けて取り組んでいきましょう。

医療従事者の負担軽減に向けた取組

医師の時間外労働上限規制・勤務間インターバル遵守・宿日直体制の運用を適切に行うため、
各職種の負担を減らし効率的な運営体制を目指して、院内全体で業務見直しを進めていきます。

医師のタスクシフト

看護師によるルートキープ、放射線技師による造影剤注射・画像構築、
臨床工学技士による麻酔補助、医師事務作業補助者の配置 等

看護師のタスクシフト

障害者雇用スタッフによるベッドメイク、夜間看護補助者の導入 等



満足度調査の結果は学内ホームページに掲載しています。ご協力ありがとうございました。
【学内専用>人事課>委員会・組合等>働き方改革推進委員会】

看護部の紹介

特定行為研修を終えて

C棟4階 鳥井 智美 C棟6階 甲斐 剛志 C棟7階 高宮 久美子
高度救命救急センター 多田 雄貴

令和5年度、私たちは、急性期コース(2名)、慢性期コース(2名)を受講し、各診療科の先生方、修了生の方々、看護実践・キャリア支援センターの皆様のご指導の下、1年間の研修を修了することができました。研修は、eラーニング、OSCE、シミュレーターを用いた実技練習、実習から構成され、医師や修了生からたくさんの学びを得ることができました。また、研修生とディスカッションを行う機会が多くあり、臨床推論や倫理的視点をもって医行為を行う大切さを学びました。修了後は、研修で得た手技や技術、知識をチーム医療に役立てていきたいと思っております。最後に、看護部のご協力のもと、研修に参加できたことに深く感謝を申し上げます。



令和6年度 奈良県看護功労者知事表彰 受賞

看護部長 石飛 悦子 C棟5階 看護主任 坂田 幸代 A棟4階 看護主任 武田 文乃

この度、令和6年度奈良県看護功労者知事表彰を受けさせていただき、身に余る光栄と感じております。私たちに与りましてこの表彰はこれまでの30年の看護師としての歩みを改めて振り返る貴重な機会となりました。奈良県内の医療機関に就職し、これまでの看護師人生30年という長い年月の間に多くの方々とお会いしました。特に奈良医大附属病院看護部の歴史を築かれた上司や諸先輩方の導きがあり、同輩や後輩の皆様にも恵まれ、さまざまな支援をいただき、奈良県看護功労者知事表彰という節目を迎えられたと思っております。心より感謝申し上げます。これからも自身の健康にも気をつけながら一層の努力をいたす覚悟ですので、変わらぬご指導をお願い致します。



先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー) vol.13、vol.14を掲載しています

(本学ホームページ) > 研究力向上支援センター > 若きトップサイエンティスト

当シリーズでは本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にも紹介しています。Vol.13では精神医学 助教 大塚紀朗先生の論文「Diagnosing psychiatric disorders from history of present illness using a large-scale linguistic model.」【Psychiatry and Clinical Neurosciences】: [現病歴の記録を大規模言語モデルを使って解析し、精神疾患を診断する]、Vol.14では本年4月より日本学術振興会 特別研究員-PD(学振PD)として採択された発生・再生医学 特別研究員 高島友弥先生にインタビューを行いました。先生方の研究活動や論文の概要、研究を進めてこられた動機、プロセス、今後の抱負などについてお話を伺いました。

これらの内容は、研究力向上支援センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

研究力向上支援センターでは、この他様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「研究力向上支援センターニュース」や研究力向上支援センターの学内ホームページでご紹介をしていきますのでご期待ください。記事は右記の二次元バーコードからご覧いただけます。



精神医学
助教 大塚紀朗先生



発生・再生医学
特別研究員
高島友弥先生



がん診療における情報の非対称性に対応するためのツールについて

戦略的医療情報連携推進講座・教授／医療情報部・部長 玉本 哲郎

みなさんは、「情報の非対称性」という言葉を知っていますか。「情報の非対称性」とは、もともと契約理論と経済学において、取引における意思決定の研究で一方の当事者がもう一方よりも多くの、または優れた情報を持っている状態のことを指します¹⁾。医療においては、医師と患者との間の情報の非対称性が、医師から患者への診療情報の説明や治療の意思決定の際に問題となることがあります。それを少しでも克服できる可能性のあるツールを再認識したので紹介したいと思います。

国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス(gajoho.jp)」というサービスは、がん診療に携わっている医療スタッフなら一度は見たことがあると思います。私自身もホームページの一部や冊子などは、まれに見ることはあったのですが、ホームページの構成がリニューアルされていることについては知らず、担当医と患者間でスムーズは意思決定ができていない事例があったので、放射線治療の患者説明の内容を確認していたときに、偶然に2021年7月にリニューアルされていたこと発見しました(図1)。正直なところ以前のバージョンはあまり利用できないと思っていたので、実際に確認することはなかったように思います。

リニューアルされた8つのポイントについては以下に示します²⁾。①旧ウェブサイトのコンテンツを整理し、ほとんどを5年以内に作成/更新した情報に、②どのページからも、サイ

ト内検索や、相談先病院の検索ができるように、③最も利用者が多い、がんの種類別の情報をすぐに関連できるように、④サイト内の情報を一覧で確認できるように、⑤閲覧履歴の確認や、よく見るページの登録ができるように、⑥小児、AYA世代、はたらく世代といった世代別に情報を探ることができるように、⑦医療関係者向けおよび統計サイトの改良、⑧がん統計サイトの改良です。

また、上部のバーにある「病名から探す」、「治療と生活」、「制度やサービス」、「世代別の情報」、「予防・検診」、「資料室」の6つの項目(図2A, B)から、個別の知りたい事象を探そうとすることがわかりやすく検索できるようになっています³⁾。実際にこのホームページの「地域のがん情報」から、がん患者さんのための療養ガイド第4版(奈良県版)(図3)にたどりつくことができます⁴⁾。

リニューアルによって非常に見やすく、患者さんだけではなく、医療スタッフや普段がん診療に携わらない医師の方々にも患者さんへの説明の際に参考になると思われます。一度ご覧になることをお勧めします。

参考資料

- 1) <https://ja.wikipedia.org/wiki/情報の非対称性>
- 2) https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2021/0701/index.html
- 3) <https://ganjoho.jp/public/index.html>
- 4) <https://www3.pref.nara.jp/gannet/secure/3938/ryouyouguido4.pdf>



図1：がん情報サービスのトップページ



図2B：がん情報サービスの選択項目2



図2A：がん情報サービスの選択項目1



図3：がん患者さんのための療養ガイド第4版(奈良県版)

4.16 オートファジー・抗老化研究センター設立記念キックオフシンポジウムを開催しました

日本が世界をリードするオートファジーの基礎研究によって、その基本メカニズムや抗老化における役割が解明されつつありますが、ヒトにおけるエビデンスが少ないこともあり、オートファジーを臨床に応用するには至っていません。

本学では、オートファジーと老化の関連解析のエキスパートである生化学の中村修平教授を「オートファジー・抗老化研究センター」のセンター長に迎え、医学部の強みを活かして様々な基礎、臨床の講座、そして企業などと連携し、種々の共同研究を実施することで課題を克服しオートファジーを通じた新たな抗老化と究極の予防医学の実現を目指しています。

センターの開設にあたり、4月16日に奈良県コンベンションセンターで開催した設立記念キックオフシンポジウムには、一般の皆様をはじめ、大学、企業の関係者など300名近くの方にご来場いただきました。

シンポジウムは、細井裕司 理事長・学長の挨拶から始まり、山下真 奈良県知事の来賓挨拶の後、2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典 東京工業大学栄誉教授の基調講演で、酵母を用いたオートファジーメカニズムの発見物語を紹介されました。続いてオートファジー研究第一人者の吉森保 大阪大学大学院特任教授からは、一般の人でも理解しやすい内容でオートファジーの展開可能性の紹介がありました。

「オートファジー・抗老化研究センター」の中村修平センター長からは、今後はヒトの抗老化に踏み込んだ研究を進めていくことを、杉江和馬副センター長からは、神経筋疾患の究明や治療にオートファジーを活用した研究を進めることについて紹介がありました。

この模様は、新聞やWEBなど全国に報道され、当研究センターの目指すもの、本学が目指す取組を多くの方々にご周知することができました。



大隅良典栄誉教授（東京工業大学）



吉森保特任教授（大阪大学大学院）



中村修平センター長



報道機関からの囲み取材



細井裕司学長



山下真奈良県知事



前列左から中村センター長、嶋医学部長、大隅良典東京工業大学栄誉教授、吉森保大阪大学大学院特任教授、杉江副センター長と後列はオートファジー・抗老化研究センタースタッフのみなさん

In April 2024 the Department of Clinical English conducted its 3rd annual English Basic Life Support (BLS) First Aid course.

These courses are designed to give 1st year medical and nursing students hands-on experience of clinical medicine, clinical reasoning, and clinical English through simulated cases, roleplays and task-based team-based learning. New Zealand-certified professional first responders teach the courses, which are in line with the BLS courses required of all New Zealand first-year medical students. Each year the number of students wishing to participate in these internationally certified courses has increased. In 2024 over 30 medical and nursing students attended, making for an exciting and challenging weekend, but also stretching resources to the limit.

During the course, students were introduced to basic medical procedures like primary and secondary survey techniques, airway management, Cardiopulmonary Resuscitation (CPR), Automated External Defibrillator (AED) use, bleeding and wound management, and more. Most importantly, all of these medical techniques were practiced multiple times giving students ample opportunity to master each technique and integrate them one by one with previously learned techniques. At the same time, students acquired an understanding of the basics of clinical reasoning for the first time in their medical education. This was achieved through the practice of basic history taking and case assessment, triage both within and between patients, and even adjustment of best practices to fit what is possible in the pre-hospital environment. Finally, all communication between teachers and students, students and students, first aider and patient (during roleplays) was carried out in English giving students their first experience of both learning and practicing medicine in English.

These courses are run as part of President Hosoi's dedication to "developing the best Clinical English program in the country". They have been largely successful due to the hard work of Mr. Yokota (Skills Lab.), the guidance of Professor Fukushima (Emergency Medicine), and the generous support and donations from graduates and the general public. We would also like to thank the many graduates of our English First Response and Advanced Cardiac Life Support (ACLS) program who return to assist with this course, every year.

In future years, the Department of Clinical (DoC) English hopes to expand these courses to include all 1st-year students and even members of the local community. Would you like to participate or assist in 2025? Please contact DoC English today! doceng.nmu@gmail.com



4.25
5.24
6.25

MBT 研究所運営会議を開催しました

MBT 研究所では、各活動についての進捗報告、企画調整の場として月に一度 MBT 研究所運営会議を行っています。

運営会議では、マッチングの取り組み状況や今後の進め方について議論を行い、MBT 連携企業数の報告や連携企業間での情報交換ツールなど MBT 広報活動についての情報を共有しました。

また、12月3日(火)4日(水)「2024“よい仕事おこし”フェア(東京ビッグサイト)」の展示内容について検討、2025年1月18日(土)日経ホール(東京都)にて開催予定「第4回 MBT みんなで守いのちの映画祭」の内容についても議論しました。MBT 難病克服キャンペーンの取り組みとしまして“みんなで守いのち”をテーマに、より多くの方々に映像作品を楽しみながら難病についての理解を深めていただければと思います。

今後も MBT 活動の幅を広げ、連携機関とともに成果を多くの人に知っていただけるよう努めてまいります。



MBT 研究所運営会議の様子

5.11 高度生殖医療センター開設記念シンポジウムを開催しました

日本では年々出生率が低下し少子化が進んでいます。これらの背景には、晩婚化、妊娠年齢の高齢化による不妊症リスクが上昇していることが考えられます。本学では、県内を中心に不妊で苦しむ方々に最新の生殖医療を県内クリニックと連携して提供する「高度生殖医療センター」を4月より開設いたしました。

開設にあたり、5月11日奈良県コンベンションセンターで開催記念シンポジウムを開催し、会場には200名を超える参加者にお越しいただき、センターでの医療内容の紹介や不妊治療に関する有識者からの基調講演を行いました。



木村文則副センター長 基調講演



鈴木直先生 特別講演

シンポジウムは、本学細井裕司理事・学長の開会挨拶から始まり、山下真奈奈良県知事の来賓挨拶の後、実質的に高度生殖不妊治療を牽引することになる木村文則副センター長(産婦人科学 教授)が基調講演を行いました。基調講演では、センター設立の背景、治療内容、記念事業である「奈良発、未来のパパママ」プロジェクトの企画を紹介しました。次に、小児・AYA 世代がん患者の生殖医療を専門とする鈴木直先生(聖マリアンナ医科大学産婦人科学 講座 主任教授)が特別講演として、生殖医療の現状と課題などについてお話しくださいました。最後に、患者、行政、医療関係者を含めたパネルディスカッションを行い、盛況のうちにシンポジウムが終了となりました。



木村文則副センター長 進行によるパネルディスカッション

また、5月9日にはシンポジウムに先立ち、奈良県庁で吉川公彦センター長(本学附属病院 病院長)、木村文則副センター長が、テレビ局2社、新聞関係7社に対し高度生殖医療センターの開設を紹介する記者会見を行いました。

吉川センター長からは、少子化・晩婚化の中で高まる生殖リスクの最後の医療ディフェンスラインを守る、として、また木村文則副センター長からは、最新医学と最新システムで難易度の高い体外受精やがん患者の生殖支援を行うとともに、地域クリニックと連携して患者さんの負担を抑えた治療を行う、と紹介がありました。

記者からは多くの質問があり、1時間の予定を大幅に超える会見となりました。

翌日には新聞、WEBで奈良医大高度生殖医療センターの開設が全国に報道されることとなりました。



5.13
6.10

MBT 特命教員による医学部生への特別講義

本学では、MBT の目標である産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められる方に MBT 特命教員の称号を授与しています。現在、6 名の方々に MBT 特命教員に就任いただいております。ご自身の豊富な人生経験をもとに毎年 1 回本学の学生に、幅広い視野を持つ人間に育成されるよう講義をしていただいております。今回は 4 名の特命教授の講義をご紹介します。

5/13 MBT 特命教授 (城南信用金庫理事長) 川本 恭治

講義では信用金庫を取り巻く環境の変化による逆境と逆境をどのように乗り越えたかを中心に語っていただきました。「困っている人を助ける」という点では信用金庫と医師とで同じ役割を持っているとし、「新型コロナウイルスの影響は落ち着きつつあるものの、未だに多くの方々が困っている現状を早く以前のように安心して暮らせる日々を取り戻せるよう連携して頑張りましょう」と語られました。



5/20 MBT 特命教授 (DMG 森精機 代表取締役) 森 雅彦

DMG 森精機がどのように世界を牽引するトップ企業へと登り詰めたかをはじめ、貴重な体験談を語っていただきました。「よく遊び」「よく学び」「よく働く」という DMG 森精機の社是を引用され、この 3 つがバランスよくできていなければいけないと、学生をはじめ参加した教職員に向けてお話いただきました。全体を通してユーモアを織り交ぜた講義となっており、講義の最後には質疑応答の時間が設けられ学生の質問にもご回答いただきました。



6/3 MBT 特命教授 (元パナソニックホールディングス取締役会長) 長榮 周作

講義のテーマとして「剣道と経営」を挙げられ、小学校 4 年生から続けている剣道から得た経験や考え方がどのように経営に役立てられたかについて語っていただきました。

「守・破・離」という長榮氏の座右の銘について語られました。言葉の意味としては、基本を忠実に「守」り、自分の殻を「破」るため修行を積み、一派を「離」れて、自分流を作ること为目标とするという意味で、元々は剣道や茶道の修行で使われる考え方ですが、仕事にも同じ考え方できるとお話いただきました。講義の最後には質疑応答の時間が設けられ、学生たちの質問にご自身の経験を交えてお答えいただきました。



6/10 MBT 特命教授 (クオールホールディングス取締役会長) 中村 勝

講義のテーマとして「百萬塔に込めた医療人の想い」を挙げられ、奈良時代に国家安穩・死者供養のため 100 万基作られ各家庭に配られたとされている「百萬塔」を現代の医療従事者の使命と責任に重ねて語っていただきました。

「できるだけ自分に正直に生きること」「自分自身に光を当てる」ということが、「人と上手に付き合うことや物事導くうえでとても大事」と学生に向けて語りかけられました。



5.24 奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が共同研究講座を設置しました

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」は、リアルテックホールディングス株式会社と三菱 UFJ キャピタル株式会社と池田泉州キャピタル株式会社が運営するファンドを引受先とした第三者割当増資により、シードラウンドとして資金調達を実施しました。今回調達した資金で、経営陣および研究開発体制の強化をおこない、本学に分子動態創薬共同研究講座 [教授 (兼任) : 杉江 和馬 (脳神経内科学)] を設置しました。



5.27

ワシントン大学医学部の今井眞一郎先生にご講演いただきました

今年度設立されたオートファジー・抗老化研究センター (<https://narmed-autophagy.jp/>) 主催の第一回特別講演として、哺乳類の老化研究の第一人者であるワシントン大学医学部の今井眞一郎先生にご講演いただきました。先生のご講演は「老化は病気か?」という参加者への質問から始まり、ここ数十年の研究からヒトの老化を制御できる時代が現実として迫っており、そのような時代を医学に携わる我々がどう生きていくべきか、そして日本で老化研究を進めることがいかに重要か、といったことについて考えさせられる、非常にスケールの大きな充実した内容でした。先生のご研究から明らかとなってきた、補酵素のひとつNAD代謝とその臓器間ネットワークがいかに寿命制御に重要な働きをするか、分かりやすくお話しいただき、ご講演後は学生、教職員から質問が絶えず、あっという間の1時間半でした。寿命研究の面白さ、重要性が伝わったと確信しています。本センターでは今後もこのような世界トップクラスの研究者の先生の講演会を開催予定ですのでご期待ください。また、センターでの老化やオートファジーに関連する研究にご興味のある学内の先生方、学生の皆さんからのご連絡も随時お待ちしております。



5.29

白衣授与式を開催しました

看護学科1年生85名を対象に白衣授与式を執り行いました。1年生を代表して総代の長崎さんが白衣を授与され、演習や実習に臨むことへの意気込みを話されました。

白衣授与後、川上看護学科長と五十嵐看護教育部長から激励のお言葉があり、白衣を身にまとうことの意味を理解し、本学でしっかりと看護について学んでほしいとメッセージを送られました。

学生は凛然とした姿で授与式に参加しており、これから白衣を着用して学んだことを社会に出て実践する様子が想像でき、学生の将来が楽しみになりました。



意気込みを話す総代

6.8

大学院看護学研究科のオープンキャンパス2024を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを開催しました。今年は35名にご参加いただき、大盛況に終えることができました。

プログラムとしては、「看護学研究科長の挨拶」、「コースの概要説明」、「個別相談会」、「先輩との座談会」等を行いました。

参加者からは、「具体的なカリキュラムの内容を知ることができました。」や「先生方や先輩方のお話を聞くことで奈良県立医科大学大学院の特徴などについて知ることができ、とても良い機会になりました。」などの感想が聞かれました。

令和7年度の入学試験は、8月19日(月)(二次募集:12月2日(月)※)に実施されます。※一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



看護学研究科長挨拶

6.9

体験型大和漢方医学薬学セミナーを開催しました

漢方診療を学んでみませんか?と題した大和漢方医学薬学セミナーを開催いたしました。

大和漢方医学薬学センター三谷男特任教授が講師となり、麻酔科学の川口教授の司会のもとに第一部は、『四診』と題して講演を行いました。

第一部の後半は、『診断の実技』—『腹診』を学ぶ—と題し、参加者の方に実際の腹診シミュレーターに触れていただきました。シミュレーターは、症例ごとに準備されており、他の詳しい参加者の方が腹診についてレクチャーをしたり、意見交換が行われるなど終始和やかな雰囲気です。セミナーが開催されました。

第二部では、本学麻酔科学の藤原学内講師の症例検討があり、処方の仕方について大変活発な議論が行われました。

各所で意見交換が行われ、大変有意義なセミナーとなりました。



三谷特任教授



川口教授



藤原学内講師

6.12

奈良臨床漢方医学 セミナーを開催しました

大和漢方医学薬学センターでは、医療従事者を対象に奈良臨床漢方医学セミナーを開催しております。

今回は本学消化器・総合外科学 庄教授の司会で、高知大学医学部附属病院病院長 花崎先生に「地方から世界へ発信する漢方薬の ADME 研究 薬物動態からみる ERAS と漢方」というテーマで講演をいただきました。世界で初めて行われた漢方の ADME 研究実験「大建中湯（だいきんちゅうとう）成分による動物を用いた ADME 実験」についてデータや写真を交えて講演していただき、参加者も熱心に耳を傾けていました。

今後も漢方に関するセミナーを予定しております。一斉メール等でお知らせしますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。



座長を務める本学庄教授



講演を行う高知大学医学部附属病院病院長花崎先生

7.3
7.4

公的研究費の適正使用に係る研修会を受講してください (Web 動画)

7月3・4日に基礎第2講義室において「公的研究費の適正使用に係る研修会及び経理事務等説明会」を開催しました。統括管理責任者の榊井副理事長より、研究費不正による社会からの信用失墜を防ぐために、コンプライアンス研修や啓発活動を通じて意識の向上と浸透を図っていくとのお話がありました。約5年ぶりの対面開催となり、WEB開催時には出来なかった質疑応答も行われ、普段の業務での疑問点を解決いただく機会となりました。

本学では、文科省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」を受け、公的研究費不正使用防止計画を定めており、公的研究費の運営・管理に関わる全ての構成員がコンプライアンス教育を受講する必要があります。受講対象者で、対面開催に参加できなかった方は、8月30日（金）までWEB上で動画を公開していますので、視聴いただき、



必ず理解度チェックテストを受けてください。公開二次元バーコードはこちらです。



外科マスター・治療パイオニアの称号付与について

本学では、「優れた外科手技・能力を有し、その手技・能力を教育・研究・診療に活用できる医師・歯科医師」に対して、「外科マスター」の称号を、「本学発祥及び誇るべき治療を有し、当該治療手技を学外に向け普及できる医師・歯科医師」に対しては、「治療パイオニア」の称号を付与する制度を設けています。

令和6年度については、役員会での審議の結果、以下のとおり「外科マスター」については9名に対して、「治療パイオニア」については1名に対して、称号が付与されました。なお、称号の付与期間は、令和6年7月1日～令和7年6月30日です。

外科マスター 称号付与者一覧 (9名)

称号名	所属	役職	氏名
頭頸部外科マスター	耳鼻咽喉・頭頸部外科	准教授	上村 裕和
脳神経血管内外科マスター	脳神経外科	教授	中川 一郎
下垂体外科マスター	脳神経外科	准教授	西村 文彦
透視下神経ブロックマスター	麻酔科 (ペインセンター)	准教授	渡邊 恵介
IVR (画像下治療) マスター	放射線・核医学科	教授	田中 利洋
口腔顎顔面外科マスター	口腔外科	准教授	山川 延宏
超音波ガイド下手術外科マスター	整形外科 (臨床研修センター)	講師	仲西 康顕
前立腺小線源治療マスター	泌尿器科 (前立腺小線源治療講座)	教授	田中 宣道
IVR (画像下治療) マスター	放射線・核医学科	准教授	市橋 成夫

治療パイオニア 称号付与者一覧 (1名)

称号名	所属	役職	氏名
上部尿路癌に対する蛍光イメージガイド尿管鏡下レーザー焼灼による腎温療法パイオニア	泌尿器科	准教授	三宅 牧人

Winner Report

9.2

第241回日本内科学会近畿地方会 において若手奨励賞を受賞しました

総合医療学 医員 藤中 加奈

この度、第241回日本内科学会近畿地方会において若手奨励賞を受賞いたしました。受賞演題は「*Salmonella Minnesota* 菌血症に対して半永久的抗菌薬治療を選択した人工弁置換術後の一例」です。文献検索と詳細な問診により、抗生剤の継続が妥当であること、また菌種がブラジル産の鶏肉由来であることを明らかにしました。ご指導いただきました吉本教授、大野講師、垣脇先生をはじめ、多くの先生方に心より感謝申し上げます。受賞を励みに今後より一層精進いたします。



11.2

第41回奈良県公衆衛生学会で 最優秀演題賞を受賞しました

県民健康増進支援センター 特任教授 富岡 公子

「COVID-19患者におけるウイルス変異の推移と重症化リスクの変化～ワクチン未接種者と接種者の比較検討～」という演題で最優秀演題賞をいただきました。本研究は、奈良県中和保健所に届け出された野生株からオミクロン株までのCOVID-19患者のデータを使用させていただきました。今回の受賞は、ご指導頂いた中和保健所長山田全啓先生、データ入力にご尽力頂いた保健所および医療機関の皆様のお陰です。この場をお借りして厚くお礼申し上げますとともに、これを励みに、今後も研究に精進して参ります。



12.22

第120回日本精神神経学会学術総会 シンポジウム組織発表賞を受賞しました

健康管理センター／精神医学 講師 山室 和彦

この度、2023年5月25日から28日に開催されたThe 11th Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professionsのシンポジウム「Childhood abuse: From basic research to functional brain imaging and clinical practice」を組織したことに對して評価をしていただき、2023年度日本精神神経学会 シンポジウム組織発表賞を受賞することができました。このシンポジウムは、虐待に関わる基礎研究から、生理学的研究、イメージング研究および実臨床の各方面のエキスパートの先生方に発表をしていただき、大変有意義で活発な議論となりました。また、精神科の諸先輩方が日頃の忙しい臨床業務の中で研究活動にも力をいれ、業績を蓄積してきたからこそであると思います。この場をお借りして皆様に深く御礼申し上げます。また、これを励みに今後も研究に精進して参りたいと思います。

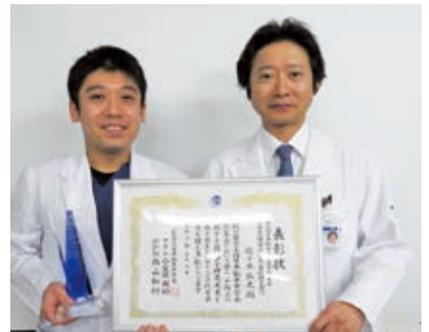


3.8

第49回日本脳卒中学会学術集会 (STROKE 2024) にて学会賞 (基礎部門) を受賞しました

脳神経外科学 医学研究科博士課程 佐々木 弘光

この度、3月7日から9日に開催された第49回日本脳卒中学会学術集会にて学会賞を受賞いたしました。受賞演題は「ミトコンドリア代謝とIschemic Postconditioning現象による神経保護作用」です。神経保護を有する虚血耐性とミトコンドリアカルシウムユニポーター (MCU) の関係を電気生理学的に解析いたしました。本研究は *Journal of Cellular and Molecular Neurobiology* 誌に Publish されております。本学の第一生理学教室との共同研究であり、御指導を賜りました当科 中川 一郎教授、第一生理学教室 齋藤 康彦教授をはじめ、多くの諸先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



3.5

インプラント治療の功績が 称えられ、表彰されました

口腔外科学 医員 堀田 聡
医員 中上 佳寿彦
医員 今田 光彦

歯科インプラント治療で多くの患者の QOL 向上に寄与したことを称えられ、Nobel Biocare 社より表彰をいただきました。一般的な歯周疾患等で歯を失った患者さんだけでなく、近年保険収載された腫瘍、顎骨髄炎、外傷等により顎欠損を来した症例や先天疾患に伴う多数歯欠損症例などに対して、インプラント治療の需要がさらに高まっています。これを励みに今後もさらに多くの咬合再建治療に貢献できるよう、より一層の努力を重ねていきたいと思っております。受賞に際しまして、桐田名誉教授をはじめとした口腔外科医局員の先生方に心より感謝申し上げます。

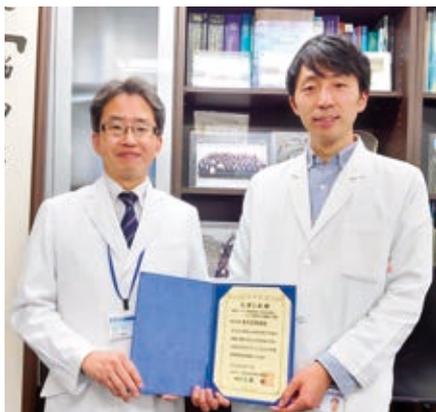


3.11

上原記念生命科学財団 研究奨励金を受賞しました

脳神経内科学 助教 七浦 仁紀

この度、「神経筋疾患の治療法開発にむけた凝集体形成機序の解明」を研究テーマとして、上原記念生命科学財団研究奨励金(200万円)を受賞しました。このような賞をいただき大変光栄に存じます。本研究課題では、神経筋疾患で見られる細胞内の凝集体が形成される機序の解析から、神経変性疾患の病態解明・治療法開発につなげていけたらと思います。本受賞を励みとし、今後も研究を推進してまいります。これまで御指導いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。



3.16

第243回日本内科学会近畿地方会 若手奨励賞で優秀演題賞を受賞しました

循環器内科学 専攻医 杉浦 圭亮

梅田スカイビルで開催された第243回日本内科学会近畿地方会における若手奨励賞セッションにて、本学循環器内科学の専攻医杉浦圭亮が演題「アントラサイクリン系抗がん剤およびペムブロリズマブによるがん治療関連心機能障害の1例」にて優秀演題賞を受賞しました。比較的少量のステロイドで心機能の改善を得た貴重な症例でした。この経験が大きな励みとなり、今後さらに飛躍していくことを期待しています。



4.13

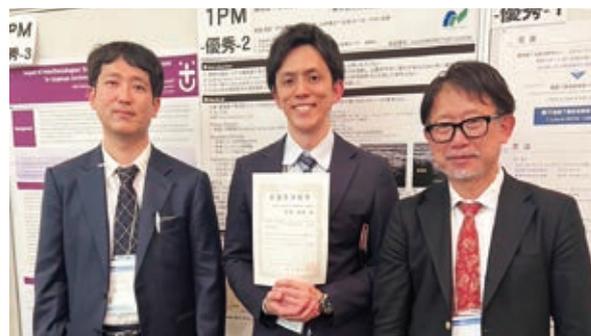
第11回日本区域麻酔学会 最優秀演題賞を受賞しました

麻酔科学 診療助教 鈴鹿 隆教

この度、第11回日本区域麻酔学会において最優秀演題賞を受賞しました。

受賞演題は「腹腔鏡下胃切除術における External Oblique Intercostal Block の鎮痛効果の検討 ―無作為化比較試験―」です。

腹腔鏡下胃切除術を対象に新しい神経ブロックを施行し、術後の疼痛スコアが改善するかどうかについて発表させていただきました。本受賞を励みに今後の日常臨床・研究に一層精進して参りたいと存じます。ご指導いただいた川口昌彦教授、田中暢洋先生をはじめ、ご協力いただきました消化器外科の庄雅之教授、松本壮平先生、國重智裕先生、中出裕士先生、B6病棟の皆様、臨床研究センターの皆様、麻酔科の皆様、心より感謝申し上げます。



3.25 厚生労働大臣より感謝状：国の新型コロナウイルス感染症対策への貢献

公衆衛生学 准教授 野田 龍也

このたび、国の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策への一連の協力に対し、厚生労働大臣より感謝状をいただきました。当教室は、レセプトデータ等のデータベース研究を進めております。コロナ禍においては、国より COVID-19 対策への協力を要請され、特に匿名医療保険等関連情報データベース（NDB；日本全国民の医療レセプトデータ）を用いた分析を進めてまいりました。

当教室が国へ提出した COVID-19 対策資料は多くございますが、特に今回は、(1) 新型コロナワクチンの初の副反応認定（2021 年 10 月）における主要なエビデンスの提出、(2) COVID-19 と季節性インフルエンザの同時流行に備えた医療逼迫に関する推計値の提出（2022 年 10 月）、(3) COVID-19 を感染症法上の 5 類へと変更する（2023 年 5 月）にあたっての決定的な分析結果の提出の 3 つについて、貢献をお認めいただいたものと考えております。

(1) のコロナワクチン副反応認定（若年男性の心筋炎）においては、平時の心筋炎発生率とワクチン接種者の心筋炎発生率という異なるデータ源の推計値を「接ぎ木的に」照合する O/E 分析と呼ばれる手法が用いられ、野田は平時側の分析を担当しました。(2) のコロナ・インフルエンザ同時流行推定においては、インフルエンザの都道府県別・週別受診者数推計を担当し、この推計結果は、同時流行に備えた対応の基礎資料として国から全国の都道府県へ配布されました。(3) COVID-19 の 5 類化については、COVID-19 の特別対策を終了する法律上の条件として、「COVID-19 の重症度が季節性インフルエンザと同程度となった場合」という規定がありました。野田はこの規定を満たす全国データを国へ提出し、2022 年 3 月の厚労省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードで発表いたしました。

これらの分析は、おもに厚労省の新型コロナ対策本部からの要請により行われました。特に、(3) のデータについては、政府が 5

類への変更を決断する際、総理大臣、厚生労働大臣に根拠資料としてご確認をいただき、また、自由民主党のコロナ対策本部が 5 類への変更を了承する際に決定的な資料となったとお聞きしております（東愛知新聞 2023 年 2 月 1 日）。

当教室は、今村知明教授の指導のもと、公益に資する研究と提言を幅広く続けてまいりました。今回、上記の COVID-19 対策について、他の大学ではなく、奈良医大に協力のご依頼があったことは、本学と国との平時からの信頼関係によるものと考えております。一方、COVID-19 対策は国民の生命と生活、医療関係者への負荷を左右する重大な施策ですので、私としては、仮に厚労省からの依頼であっても、国の意向を慮ることはせず、歴史の評価に耐えるよう、偏りのない公平な分析を心がけました。また、この分析を誰でも再現・批評できるよう、計算の過程の公開など、透明性の確保に努めております（<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000906106.pdf>）。

今回の一連の分析は、学内外の多くの方のご協力のもと行われました。本学関係者では、分析の方向性を的確に示し、励ましていただいた今村知明教授、厚労省で調整に尽力いただいた明神大也主査（現公衆衛生学講座）、吉原真吾専門官（本学感染症内科出身）、北野泰斗検疫医療専門職（本学小児科出身）などから主要な貢献をいただきました。

国内初の新型コロナウイルスのヒト-ヒト感染事例は、2020 年 1 月に奈良県で発生し、本学の先生方が総力を挙げて対応に当たられました。その COVID-19 対策に一定の目途をつける科学的根拠を提出したのもまた奈良医大であり、本学は、我が国の COVID-19 対策のはじまりと終わりに関わることとなりました。奈良医大がコロナ禍という歴史的な事態に立ち向かうことができたのは、平素からの本学のさまざまな教職員の努力が積み重なった結果と感じております。今後ともご指導のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



5.19

第35回日本臨床モニター学会で 奥秋記念賞を受賞しました

麻酔科学 講師 林 浩伸

このたび、5月18日～19日に開催された第35回日本臨床モニター学会におきましてClinical Neurophysiology誌に掲載された「Transurethral electrical stimulation for intraoperative bulbocavernosus reflex monitoring during spine surgery in females」に対して奥秋記念賞を受賞しました。川口教授をはじめとして、術中神経モニタリングチームのご協力のお陰です。

今後手術を受ける患者さんの神経機能予後の改善を目指し術中神経モニタリングチームで仲良く頑張っていきます。



5.23

国際ソロプチミスト奈良一あすか 女性研究者賞を受賞されました

国際ソロプチミストは、女性と女児の生活と地位を向上させるための奉仕活動を行い、世界の様々な女性の地位向上を目指す組織です。国際ソロプチミスト奈良一あすかクラブでは、将来性のある研究を行う優秀な女性を表彰する目的で女性研究者賞を創設しています。本学からは、奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞した研究者を毎年推薦しています。

この度、消化器・総合外科学の庄雅之教授ならびに女性研究者・医師支援センター長から推薦を受けた松尾泰子助教が、専門とする肝胆膵外科領域の基礎研究として取り組んでいる「大腸癌肝転移に対するCD200を介した新規複合免疫療法の開発」というテーマで、国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞されました。



消化器・総合外科学 松尾泰子助教

5.23

国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院 女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました

国際ソロプチミスト奈良一あすかでは、大学院女子学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。本学では、女性研究者・医師支援センターが主体となり、毎年1名の候補者を学内で選考しています。

本年度は、糖尿病・内分泌内科学の高橋裕教授から推薦を受けた紙谷史夏先生(医学研究科 博士課程4年)が、「免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) による内分泌免疫関連有害事象のビッグデータ解析」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。本研究では、1億人以上のレセプトデータを解析することにより、世界に類のない規模で、疫学及び病態の解明を目指しています。



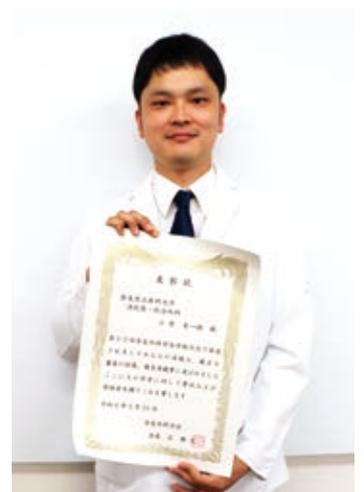
糖尿病・内分泌内科学 紙谷史夏助教

5.25

第55回奈良外科学会学術大会で 優秀演題賞を受賞しました

消化器・総合外科学 診療助教 小原 有一朗

第55回奈良外科学会学術大会において優秀演題賞を受賞しました。発表内容の「Prognostic nutritional indexとCKを組み合わせた新しい膵癌予後指標の構築」では、膵癌治療開始時の患者因子を簡便に評価する指標について発表させていただきました。今回の受賞を励みとして、今後もさらに学術活動に励みたいと存じます。本研究にあたり多大なる御指導を賜りました庄雅之教授、研究に御協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



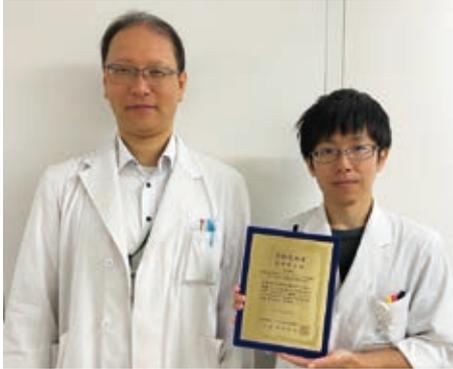
Winner Report

5.30

令和6年度日本病院薬剤師会学術奨励賞を受賞しました

薬剤部 係長 青井 博志

この度、令和6年度日本病院薬剤師会学術奨励賞を受賞しました。この賞は、病院薬剤師の職能向上に寄与する優れた学術活動を奨励するため、日本病院薬剤師会雑誌に掲載された論文の中から年に一度受賞者が選考されます。受賞論文は「重要業績評価指標のアプローチ手法による外来調剤における渡薬待ち時間軽減の業務改善活動」で、薬剤部でこれまで行ってきた外来調剤待ち時間軽減に対する業務改善活動により、調剤エラー低減を堅持しながら渡薬待ち時間が有意に軽減されたことを示しました。池田部長をはじめ、薬剤部の先生方の熱心なご指導により受賞することができました。心より感謝申し上げます。



6.1

第2回「仲景杯」全国学生漢方選手権大会優勝！

東洋医学研究会

医学科5年 北野 和希 医学科5年 山口 晃一

第74回日本東洋医学会学術総会主催の第2回「仲景杯」全国学生漢方選手権大会にて、優勝いたしました。本大会は全国の東洋医学に興味を持つ学生が事前に2日間で症例演習問題を解き、当日のプレゼンテーションと質疑応答で総合得点を競い合うというものです。今回の受賞を励みとして今後も活動していく所存です。本大会の出場にあたりご指導を賜りました、大和漢方医学薬学センター三谷特任教授、医療法人田中医院田中院長、顧問の麻酔科川口教授に心より感謝申し上げます。



前列右から2人目：北野さん、前列左から2人目：山口さん

6.6

第31回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

今回の受賞者は循環器内科学の中川仁助教、血栓止血分子病態学の下西成人講師の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

表彰式後、中川助教が「ナトリウム利尿ペプチドの心臓リモデリングに対する保護的作用の検討」、下西講師が「血栓症を呈した新規凝固第V因子異常症における抗凝固機能低下機序の解明」と題して講演を行いました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的な応募をお待ちしています



講演の中川助教



講演の下西講師



前列：左より彦惣教授、細井学長、中川助教
後列：左より嶋医学部長、吉栖研究部長



左より吉栖研究部長、嶋医学部長、細井学長、下西講師

6.6

第13回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

女性研究者学術研究奨励賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的に、平成23年度に創設されました。

第13回の受賞者は解剖学第一の堀井謹子講師で、授賞式にて賞状、記念品の盾及び研究奨励金を授与しました。授賞式後、堀井謹子先生による「起こるかもしれない脅威から身を守る神経回路：強迫性障害との関連」と題した講演を行いました。



解剖学第一 堀井謹子講師



前列：左より井上教授、細井学長、堀井講師
後列：左より嶋医学部長、吉栖研究部長

6.14

「Newsweek」による「Best Specialized Hospitals Asia-Pacific 2024」の整形外科部門で奈良県立医科大学附属病院が選出されました

国際ニュース週刊誌「Newsweek」（2024年6月14日号）に発表されたアジア太平洋地域の病院ランキング「Best Specialized Hospitals Asia-Pacific 2024」の整形外科部門で、奈良県立医科大学附属病院が選出されました。全体で38位、日本で6位です。



6.15

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会 海外留学助成金 厳檀学術奨励賞受賞者決定

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、令和6年度厳檀学術奨励賞の表彰式が行われました。この賞は、母校の発展の一助とするため、海外での学術の研究、調査等に従事する者に対し、同窓会がその費用の一部を助成金として支給しているものです。

今回の受賞者は、脳神経外科学の森本亮之先生に決定しました。令和7年1月1日から1年間の予定で、アメリカのカリフォルニア大学サンディエゴ校に留学される予定です。



6.19

6.23

23rd International Conference on Emergency Medicine 2024 TaiwanでExcellent Awardを受賞しました

救急医学 診療助教 山本 幸治

この度、6月19日～23日に台北(台湾)で開催された23rd International Conference on Emergency Medicine 2024にて発表した「Association between Quality of Dispatch-Assisted CPR and Patient Outcome in Out-of-Hospital Cardiac Arrest」が Excellent Award を受賞しました。福島教授をはじめとする救急科諸先生方のご指導に感謝いたします。今回の受賞を励みとして、今後も病院前診療にかかる研究に精進して参りたいと考えております。



Winner Report

7.10 横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました

本学の研究の一層の推進を目指して行われている横断的共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、今年度は下記の研究課題が採択されました。

本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進するための横断的共同研究助成事業には6件の応募があり、生化学 中村教授が研究代表者である共同研究が採択され、1,000万円(R6:500万円、R7:500万円)が助成されます。

また、若手研究者研究助成事業には10件の応募があり、下記の9名が採択され、それぞれ50万円が助成されます。

■ 横断的共同研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
生化学	教授	中村 修平	リソソームストレス応答破綻によるヒト神経・筋疾患発症進展の機序解明	①脳神経内科学 教授 杉江 和馬 ②生化学 助教 牧野 舞 ③生化学 学生 長江 和葉 ④脳神経内科学 講師 桐山 敬生 ⑤脳神経内科学 診療助教 塩田 智 ⑥徳島大学 先端酵素学研究所 教授 小迫 英尊 ⑦熊本大学 生命資源研究・支援センター 教授 沖 真弥

■ 若手研究者研究助成事業 採択者

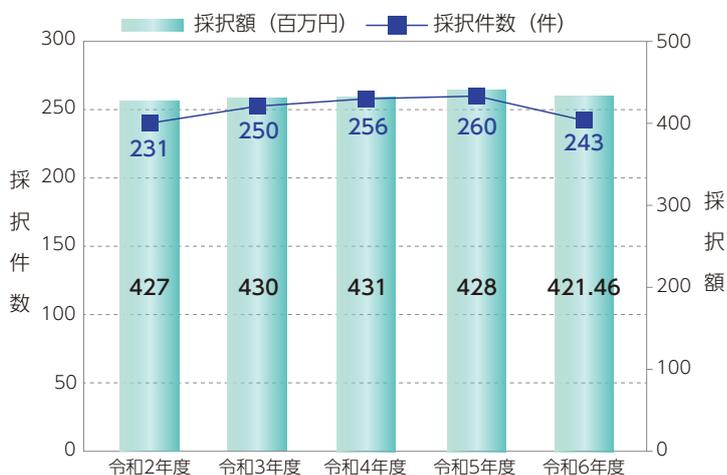
所属名	職	氏名	研究課題名
輸血部	医員	濱村 貴史	血栓性血小板減少性紫斑病に生じる心筋虚血障害と好中球細胞外トラップの関連
眼科学	助教	平井 宏昌	止血因子に着目した糖尿病網膜症の重症度予測
脳神経内科学	医員	山田 七海	病理組織像と1対1で紐づいた細胞レベル遺伝子発現解析による封入体筋炎の病態解明
輸血部	診療助教	齋藤 健貴	急性期後天性血栓性血小板減少性紫斑病におけるフォンウィルブランド因子の挙動の解析
輸血部	医員	安積 秀一	免疫原性血栓性血小板減少性紫斑病患者における免疫学的機序の検討
感染症内科学	医員	伊藤 渉	ESBL産生肺炎桿菌増加の原因解明：治療戦略・感染対策の立案を目指して
消化器・総合外科学	医員	曾我 真弘	網羅的解析による胃癌術後再発予測RNAパネルの開発
消化器・総合外科学	医員	吉川 千尋	一時的回腸人工肛門造設術後の腸内細菌叢の変化と腎機能への影響
脳神経内科学	医員	菅田 真由	未治療パーキンソン病に対するバイオマーカーの探索とその病態

令和6年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

令和6年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金(文部科学省、独立行政法人日本学術振興会))が決定しました。令和6年5月1日現在の状況は下記のとおりです。

来年度においても積極的な応募申請をよろしくお願いします。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	経費	
			直接経費	間接経費
令和6年度	243	421,460	324,200	97,260
令和5年度	260	428,470	332,800	95,670
令和4年度	256	431,160	332,100	99,060
令和3年度	250	429,840	330,900	98,940
令和2年度	231	426,980	328,700	98,280



令和6年度 文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

研究種目	教室名 (2024.5.1)	職名 (2024.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
学術変革領域研究 (A)	第一生理学	准教授	眞部 寛之	匂いを多次元の価値に変換する神経回路機構の解明と質感の客観的評価法の構築	2023	2024
学術変革領域研究 (A)	生化学	教授	中村 修平	リソソーム構成タンパク質のターンオーバーを担う分子機構と老化における役割の解明	2024	2025
基盤研究 (A)	発生・再生医学	教授	栗本 一基	組織学と複合した単一細胞 DNA メチル化解析法による原始卵胞淘汰過程の解明	2020	2024
基盤研究 (A)	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	疫学と臨床医学、情報工学の融合によるデータベース医学の標準的疾患定義の開発	2020	2024
基盤研究 (A)	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療・介護・健診連結データを用いた意思決定に資するリアルワールドエビデンスの構築	2023	2027
基盤研究 (B)	発生・再生医学	准教授	小林 久人	ゲノム刷り込み機構の機能的多様性を明らかにする種間インプリントーム比較解析	2021	2024
基盤研究 (B)	循環器内科学	博士研究員	斎藤 能彦	収縮性の保持された心不全の発症・進展機序の解明に関する研究	2022	2024
基盤研究 (B)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	医療・介護・健診連結ビッグデータを用いた内分泌代謝疾患のリアルワールド解析	2022	2026
基盤研究 (B)	産婦人科学	教授	木村 文則	子宮内細菌叢形成の探求とそれに基づいたプレコンセプションケアの開発	2023	2025
基盤研究 (B)	在宅看護学	教授	小竹 久美子	喉頭全摘出者の退院後の QOL 向上を目指す継続看護チームの介入：RCT による縦断調査	2023	2027
基盤研究 (B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	自律的な初期胚形成が可能な全能性状態の誘導	2024	2027
基盤研究 (B)	生化学	教授	中村 修平	生殖と寿命のバランス制御の中核を担う組織間情報伝達カスケードの解明	2024	2026
基盤研究 (B)	放射線診断・IVR 学	教授	田中 利洋	肝癌カテーテル治療における新規 DDS の臨床実用化に向けた開発と動注免疫療法への応用	2024	2028
基盤研究 (B)	第二生理学	講師	坂野 公彦	オンチップ血管モデルを基盤とした Sturge-Weber 症候群の分子病態解明と新規治療法開発	2024	2026
基盤研究 (B)	免疫学	講師	北畠 正大	肺線維症における病原性線維芽細胞の持続活性化制御による新規治療戦略の確立	2024	2027
基盤研究 (B)	皮膚科学	准教授	新熊 悟	X 染色体不活性化機構を応用したモザイクマウスを用いた細胞増殖優位性獲得機序の解明	2024	2026
基盤研究 (B)	微生物感染症学	助教	鈴木 由希	医療環境と病院排水における薬剤耐性菌の実態把握と耐性遺伝子伝播要因の解明	2024	2027
基盤研究 (C)	精神医学	教授	岡田 俊	表情認知障害を起点とする自閉スペクトラム症の二次障害の成立過程の解明	2020	2024
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	田中 誠人	がん骨転移診療システム構築に向けての取り組み	2021	2024
基盤研究 (C)	女性研究者・医師支援センター	講師	須崎 康恵	女性医師のアカデミックキャリア向上を目指した新たな教育プログラムの開発	2021	2024
基盤研究 (C)	人間発達学	教授	太田 豊作	自殺予防のための自閉スペクトラム症のある子どもの自殺リスクと自尊心の検討	2022	2024
基盤研究 (C)	第一解剖学	講師	堀井 謹子	未知なものに対する不安・葛藤と行動を調節する神経回路の解明	2022	2025
基盤研究 (C)	生物学	講師	小林 千余子	淡水棲マミズクラゲがもつ3つの謎（性決定、芽体形成、生物伝播）の解明に迫る	2022	2025
基盤研究 (C)	医学研究支援センター	ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター	金子 涼輔	登上線維の結合パートナー選択とブルキン工細胞の個性	2022	2024
基盤研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	脳内に局在する Olig2 由来アストロサイト亜集団の機能解析	2022	2024
基盤研究 (C)	脳神経内科学	准教授	形岡 博史	コロナ禍とパーキンソン病患者：うつ症状の経年変化、睡眠・身体活動測定値の前後比較	2022	2025
基盤研究 (C)	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	オートファジー関連神経筋疾患におけるタンパク質恒常性の破綻機序解明	2022	2024
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	斎藤 こそえ	超高超音波イメージングを用いた血流解析による頸動脈プラーク不安定性評価	2022	2025
基盤研究 (C)	RI 実験施設	博士研究員	小橋川 新子 (菓子野 新子)	ミトコンドリアからのシグナルは放射線による炎症誘発に関与するか？	2022	2024
基盤研究 (C)	小児科学	准教授	荻原 建一	血友病 A とフォンウィルブランド病治療薬の半減期を規定するクリアランス受容体の探索	2022	2024
基盤研究 (C)	消化器内科学	博士研究員	守屋 圭	抗酸化 Nrf2 経路賦活による PBC の病態改善 ―ヘスペリジンを用いた新治療―	2022	2024
基盤研究 (C)	消化器内科学	医員	高谷 広章	血液凝固制御因子 ADAMTS13 による急性肝不全新規治療法とバイオマーカーの開発	2022	2024
基盤研究 (C)	循環器内科学	助教	中川 仁	ネプリライシンの心不全改善効果に寄与する基質の優位性の解明	2022	2024
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	助教	北村 知高	肺由来コンボジットマテリアルによる多能性幹細胞から肺オルガノイドの創出と機能解析	2022	2024
基盤研究 (C)	血液内科学	教授	松本 雅則	後天性・血栓性血小板減少性紫斑病の動物モデルの作成	2022	2024
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	高病原性を示すカルパペナーゼ産生肺炎桿菌の分子疫学と治療法構築に向けた研究	2022	2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	講師	久野 博之	クローン病肛門病変に対する組織工学および免疫制御による新規局所療法の開発	2022	2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	安田 里司	肝細胞癌に対する血管新生阻害併用免疫療法における耐性機序の解明と新規治療法の開発	2022	2024
基盤研究 (C)	がんゲノム・腫瘍内科学	医員	宮尾 晋太郎	FFPE 標本に対する超高感度微量解析のための革新的 cDNA 合成法の開発	2022	2024
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	助教	武村 潤一	人工赤血球を用いた人工心肺充填による臓器保護効果	2022	2024
基盤研究 (C)	中央手術部	医員	大井 彩子	子宮癌手術中における電極付き尿道カテーテルを用いた排尿機能モニタリングの有用性	2022	2025
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	野村 泰充	救命救急センターで分離された ESBL 産生大腸菌の患者背景と分子疫学的解析	2022	2024
基盤研究 (C)	救急医学	助教	川井 廉之	敗血症の原因菌に対する迅速同定検査法の確立	2022	2024
基盤研究 (C)	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	チェックポイント分子 HIF1 α をゲノム編集した NK 細胞による膠芽腫治療法の開発	2022	2024
基盤研究 (C)	脳神経外科学	博士研究員	中瀬 裕之	脳虚血に対する脂肪組織由来幹細胞とエクソソーム治療の基盤的研究	2022	2024
基盤研究 (C)	脳神経外科学	教授	中川 一郎	ミトコンドリアカルシウムユニポーターを介した虚血耐性メカニズムの解明	2022	2024
基盤研究 (C)	整形外科	講師	藤井 宏真	小児大腿骨頭壊死に対する改良骨髄間葉系幹細胞を用いた新規治療法の開発	2022	2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	今中 聖悟	子宮内膜症に対する酸化的自爆死を誘導する非ホルモン治療法の開発	2022	2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	松原 翔	新たな腫瘍マーカー組織因子経路インヒビター 2 による卵巣腫瘍の良悪性の鑑別	2022	2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山田 有紀	がん関連血栓症における新規卵巣癌マーカー TFPI-2 の作用機序の解明	2022	2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	吉元 千陽	新たな磁気共鳴緩和測定法を用いた子宮内膜症関連不妊症の重症度の非侵襲的予知	2022	2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山中 彰一郎	ARID1A 遺伝子変異卵巣明細胞癌に対する CDC6 による合成致死メカニズムの解明	2022	2024
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	木村 隆浩	頭頸部癌患者から作成したスフェロイドを用いたがん微小環境による EMT 誘導の解析	2022	2024
基盤研究 (C)	眼科学	医員	吉川 匡宣	生体リズムに着目した緑内障患者の新たな眼外・眼内因子の探索：前向きコホート研究	2022	2024
基盤研究 (C)	口腔外科学	助教	仲川 洋介	PIKK ファミリー関連 DNA 修復機構を標的とする新規口腔がん治療戦略	2022	2025
基盤研究 (C)	哲学	准教授	池辺 寧	ハイデガーを手がかりにした現象学的医学哲学の構築	2022	2024
基盤研究 (C)	県民健康増進支援センター	特任教授	富岡 公子	健康長寿のための新しい生活様式―地域前向きコホート研究と公的統計を用いた研究―	2022	2024
基盤研究 (C)	在宅看護学	講師	栗田 麻美	がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断学習支援プログラムの開発	2022	2025
基盤研究 (C)	母性看護学	講師	上田 佳世	低リスク出産の医療の質指標を用いた医療ケアの改善に向けたプログラムの運用	2022	2024
基盤研究 (C)	小児看護学	教授	川上 あずさ	自閉スペクトラム症児の母親の情緒的巻き込まれに着目した支援方法の構築	2022	2024

Winner Report

研究種目	教室名 (2024.5.1)	職名 (2024.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
基盤研究 (C)	看護実践・キャリア支援センター	講師	渋谷 洋子	思春期に骨肉腫を経験する子どもと親の闘病プロセスの解明	2022	2024
基盤研究 (C)	在宅看護学	助教	羽場 香織	喉頭摘出者の暮らしの再構築に向けた訪問看護師による支援の探究	2022	2024
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	佐々木 隆光	ミトコンドリア標的化による抗がん剤誘導心筋障害の改善	2022	2024
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	川原 勲	糖化 HMGB1 の糖尿病性フレイルにおける役割とその抑制法の検討	2022	2024
基盤研究 (C)	化学	博士研究員	山田 孫平	リポソーム化した複合抗酸化剤による人工赤血球のメト化抑制とその機構の解明	2022	2024
基盤研究 (C)	臨床数学	講師	川口 良	トーリック多様体の偏極構造と凸多面体の関係の研究	2023	2026
基盤研究 (C)	第一生理学	助教	上田 壮志	大脳皮質オプライン情報処理に潜む機能構造	2023	2025
基盤研究 (C)	動物実験施設	講師	米田 明弘	転移癌における抗癌剤抵抗性獲得機序の解明とその応用	2023	2025
基盤研究 (C)	第二解剖学	講師	田中 達英	真皮免疫細胞に着目した痛覚新規センシング機構の解明	2023	2025
基盤研究 (C)	精神医学	講師	山内 宗平	自閉スペクトラム症におけるマクロファージの食能に着目した病態解明	2023	2025
基盤研究 (C)	精神医学	博士研究員	芳野 浩樹	社会的経験により発達する前頭前野 - 小脳回路の解明 中脳水道周囲灰白質を中心に	2023	2025
基盤研究 (C)	緩和ケアセンター	准教授	西尾福 英之	がんの低酸素環境下におけるナノテクノロジーを用いた新規 IVR 治療の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	講師	宮坂 俊輝	イメージング質量分析と MRI による Glymphatic system の比較解析	2023	2025
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	医員	茶之木 悠登	肝細胞癌に対する新規 DDS を用いたレンパチニブ肝動注療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	がんゲノム・腫瘍内科学	博士研究員	早川 正樹	肺血栓塞栓症における血管閉塞を血液マーカーで診断する方法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	マウス肺気腫モデルにおける肺胞再生の定量的形態測定とヒト肺気腫画像との相同性	2023	2025
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	准教授	王寺 幸輝	トレース機能を有する人工培養毛 iHair を用いた Wnt シグナルによる発毛制御	2023	2025
基盤研究 (C)	皮膚科学	講師	宮川 史	単球による Type2 炎症反応の抑制機構の解明と臨床応用	2023	2025
基盤研究 (C)	血栓止血医学・生化学共同研究講座	助教 (共同研究講座)	坂田 飛鳥	血管透過性亢進病態における血管外凝固第 IX 因子の役割解明	2023	2026
基盤研究 (C)	血液内科学	博士研究員	堀内 久徳	高ずり応力が招く止血異常に関する研究	2023	2026
基盤研究 (C)	感染症内科学	医員	関根 隆博	大規模な大腸菌ゲノム解析による病原性・耐性遺伝子の共存関係および表現形質の特定	2023	2025
基盤研究 (C)	RI 実験施設	博士研究員	秦野 修	塩誘導キナーゼ結合イントラクトームを介するステロイドホルモン産生組織の機能解析	2023	2025
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	黒田 靖浩	T 細胞不活化分子 CD200 を標的とした神経芽腫に対する新規治療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	准教授	濱路 政嗣	大動物モデルによる胸腺上皮性腫瘍のセンチネルリンパ節同定の探索的実験	2023	2025
基盤研究 (C)	集中治療部	病院教授	恵川 淳二	プレハビリテーションによる虚血後運動障害予防効果とカベオリン 1 発現に関する研究	2023	2025
基盤研究 (C)	麻酔科学	助教	小川 裕貴	小児脊椎手術での電極付き尿道カテーテルを使用した術中排尿機能モニタリングの開発	2023	2026
基盤研究 (C)	中央手術部	助教	植村 景子	排尿機能評価として尿道括約筋から記録する球海綿体反射モニタリングの開発	2023	2026
基盤研究 (C)	総合医療学	医員	西尾 健治	腸管虚血再灌流による腸管傷害・肝傷害の発生・進展に対する ADAMTS13 の影響	2023	2025
基盤研究 (C)	在宅医療支援センター	特任助教	西村 信城	急性呼吸窮迫症候群の病態への ADAMTS13 への影響	2023	2026
基盤研究 (C)	薬理学	准教授	中平 毅一	超らせん構造型ミトコンドリア DNA の敗血症における機能的役割の解明	2023	2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	医員	前岡 良輔	糖化 PEG 修飾型免疫チェックポイント抗体と NK 細胞を用いた集学的免疫細胞治療の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	講師	松田 良介	悪性髄膜腫に対する末梢血および臍帯血由来 NK 細胞を用いた免疫細胞療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	准教授	西村 文彦	臍帯血由来 CAR-NK 細胞による膠芽腫治療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	寄附講座手の外科講座	教授 (寄附講座)	面川 広平	再生神経インターフェイスによる有痛性断端神経腫の新規治療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	泌尿器科学	准教授	三宅 牧人	膀胱癌 BCG 療法に適応を旨とした腸内微生物メタボロゲノミクス解析	2023	2025
基盤研究 (C)	泌尿器科学	博士研究員	鳥本 一匡	間質性膀胱炎に関する腸内細菌叢での脂質代謝および血液バイオマーカーの開発	2023	2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	重富 洋志	新たな経腔光学プローブによる子宮内膜炎関連不妊症の非侵襲的予知	2023	2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	木村 麻衣	Dydrogesterone 経口投与の胎児発育不全に及ぼす影響の研究	2023	2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	脇 啓太	ヒドロキシクロロキンの習慣流産と妊娠高血圧症候群発症への影響に関する検討	2023	2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 礼	耳鳴動物モデルの普遍化と治療法開発	2023	2025
基盤研究 (C)	めまい・難聴センター	病院教授	西村 忠己	軟骨伝導聴力および軟骨伝導補聴器の評価法に関する検討	2023	2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	今井 貴夫	メニエール病のめまい発作の機序の解明	2023	2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	山下 哲範	動物実験モデルを用いた耳鳴治療の再検証と新規治療法の開発	2023	2025
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	村上 和宏	埋入トルク値の違いによるインプラント体周囲骨組織に与える影響と最適トルク値の解明	2023	2025
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	中野 章代	動物と密に接する環境が薬剤耐性菌授受と腸内細菌叢に与える影響	2023	2025
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	入浴事故予防にむけた疫学研究	2023	2025
基盤研究 (C)	成人慢性期看護学	講師	石橋 千夏	医療施設のクローン病癌化サーベイランスの認識とクローン病患者のセルフモニタリング	2023	2025
基盤研究 (C)	公衆衛生看護学	准教授	坂東 春美	孤立出産のリスク要因とポジティブデバイスによる強化的要素の解明と支援策の構築	2023	2025
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	大森 斉	がん性悪液質の増悪因子である舌萎縮の機序解明と抑制法の検討	2023	2025
基盤研究 (C)	リハビリテーション医学	教授	城戸 顕	身体活動による快情動 (心地よさ) を基盤とした新しいがんリハビリテーションの開発	2023	2025
基盤研究 (C)	脳神経内科学	医員	眞野 智生	深層筋解析を基盤とした脳血管障害後に対する歩行機能の再建研究	2023	2025
基盤研究 (C)	組換え DNA 実験施設	教育教授	杉浦 重樹	DNA 損傷特異的人工エンドヌクレアーゼによる修復亢進の分子機構	2023	2025
基盤研究 (C)	臨床研究センター	助教	五十川 雅裕	CKD 病態マーカーとしてのキララミノ酸プロファイルの有用性の検討	2023	2025
基盤研究 (C)	寄附講座スポーツ医学講座	准教授 (寄附講座)	小川 宗宏	舞台芸術家の筋骨格系障害の網羅的疫学研究および予防介入の基盤構築に向けた実装研究	2024	2027
基盤研究 (C)	教育開発センター	講師	城戸 楓	生成 AI を用いた SOAP に焦点化した電子カルテ用学習シミュレータの開発	2024	2028
基盤研究 (C)	母性看護学	講師	木村 奈緒美	産後うつ予防と母親役割を向上するための IT を活用したプログラムの構築	2024	2026
基盤研究 (C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	カルシウム透過型 AMPA 受容体の活性化に基づく注視のメカニズム	2024	2026
基盤研究 (C)	未来基礎医学	助教	五十樓 規嘉	神経変性疾患の治療法開発に向けた亜鉛フィンガードメインの新たな機能の解明	2024	2027
基盤研究 (C)	病理診断学	教授	古澤 明彦	胸膜肺実質線維性肺病の線維化を正確に捉える空間的深層学習モデルの構築	2024	2026
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子 (下嶋 典子)	新規免疫チェックポイント分子 HLA-F を標的とした免疫療法実用化に向けた基礎研究	2024	2026
基盤研究 (C)	健康管理センター	講師	山室 和彦	幼若期虐待モデルマウスにおけるストレス応答の変容とそのメカニズムの解明	2024	2026
基盤研究 (C)	中央放射線部	助教	佐藤 健司	運動器慢性疼痛に対するカテーテル治療における新規血管塞栓粒子の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線腫瘍医学	教授	磯橋 文明	機能情報を取り入れた放射線治療計画評価法の確立	2024	2026

研究種目	教室名 (2024.5.1)	職名 (2024.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	准教授	市橋 成夫	包括的高度慢性下肢虚血患者に対する経皮的深部静脈動脈化術の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	助教	南口 貴世介	造影 CT の細胞外容積分画を用いた肝細胞癌の Stem-like CD8 陽性 T 細胞浸潤の予測法構築	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	医員	山田 彩	PF-ILD のフラクタル解析と CNN 学習モデルを用いた画像診断研究	2024	2027
基盤研究 (C)	小児科学	教授	野上 恵嗣	血液凝固第Ⅷ因子制御に基づく血友病 A と血栓性疾患への新規治療薬開発の基礎研究	2024	2026
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター	医員	矢田 弘史	生体内病的环境下における血友病 A の病態解析と凝血学特性に基づく新規治療戦略の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	小児科学	特任助教	小田 朗永	脾臓内・外の抗 FVIII 応答制御による血友病 A インヒビター産生消失への挑戦	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器内科学	講師	浪崎 正	運動療法と ADAMTS13 補充療法の併用による新たな肝硬変サルコペニアの治療戦略	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器内科学	教授	吉治 仁志	Enhanced Drug Repositioning を用いた肝硬変合併症に対する同時制御治療法の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	教授	彦野 俊吾	SGLT2 を起点とした左室駆出率の保たれた心不全の病態解明と新規治療的検討	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	助教	中田 康紀	NADPH オキシダーゼを介した活性酸素による HFpEF の病態進展機序の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	講師	尾上 健児	炎症性心筋疾患における心臓局所炎症細胞の機能解明	2024	2026
基盤研究 (C)	栄養管理部	病院教授	藤田 幸男	COPD のフレイル対策のための食事習慣と栄養摂取の役割 - 健康寿命延伸への取り組み -	2024	2026
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	DIHS における NK 細胞に着目した HHV-6 感染細胞の排除機構の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	洲尾 昌伍	神経芽腫における免疫チェックポイント阻害剤耐性メカニズム解明と新規免疫治療の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	小原 有一朗	GFAT を標的とした高血糖起因性の癌化学療法抵抗性に対する新規治療戦略の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	中央内視鏡部	病院教授	小山 文一	大腸陰窩の細胞動態における神経の果たす役割の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	阪田 武	肝細胞癌の新規治療法構築を目的とした悪性度予測 microRNA リキッドバイオプシーの開発	2024	2026
基盤研究 (C)	集中治療部	医員	松浦 秀記	小児に対応した運動誘発電位モニタリングのための麻酔方法の開発	2024	2027
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	團部 奨太	ヒストンメチル化酵素 SETDB2 が関与する血管内皮細胞の細胞死メカニズム	2024	2027
基盤研究 (C)	救急医学	医員	鶴田 啓亮	人工赤血球 (Hemoglobin Vesicle) による心肺停止後の脳蘇生	2024	2026
基盤研究 (C)	玉井進記念四肢外傷センター	准教授	河村 健二	間葉系幹細胞移植を用いた標的筋肉再神経支配法の開発と神経腫治療への応用	2024	2026
基盤研究 (C)	整形外科	病院教授	谷口 晃	AI を利用した人工距骨の生体内動態解析	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	山本 皇之祐	ヒドロキシクロロキンをを用いた子宮内膜症の新規治療開発	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	小林 浩	子宮内膜症のエネルギ代謝特性に焦点を当てた非ホルモン治療の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	准教授	川口 龍二	低分子量ヘパリンを術後早期から用いた肺血栓症に対する新規予防法の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	助教	紙谷 史夏	免疫チェックポイント阻害薬による内分泌免疫関連有害事象のビッグデータ解析	2024	2026
基盤研究 (C)	理論基礎看護学	教授	松田 明子	RA 患者の最適な治療選択に向けた意思決定を支援する看護倫理教育プログラムの構築	2024	2026
基盤研究 (C)	実践基礎看護学	助教	白田 梨奈	がん患者の治療に伴う有害事象出現が職種別就労継続に及ぼす影響	2024	2027
基盤研究 (C)	公衆衛生看護学	講師	堀内 沙央里	海外渡航者が保菌する薬剤耐性菌の実態解明と感染コントロールを目指した包括的研究	2024	2026
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	羅 奕	がん性心筋障害に対する食事介入の検討	2024	2026
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	慢性腎臓病におけるサルコペニアに対する栄養介入の検討	2024	2026
基盤研究 (C)	化学	講師	松平 崇	治癒を加速させる創傷被覆材としての超分子ヘモグロビンハイドロゲルの開発	2024	2027
基盤研究 (C)	臨床病態医学	教授	山内 基雄	新たな換気応答検査と睡眠検査を活用し神経筋疾患に対する呼吸管理の精度向上を目指す	2024	2026
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	浮動性めまいの病態を評価する VR を用いた三次元的重力感受性検査法の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	麻酔科学	助教	川西 秀明	周術期の患者の安全性向上を目指した、口腔ケアを目的とした電子鼻 (e-Nose) の開発	2024	2026
挑戦的研究 (萌芽)	生化学	教授	中村 修平	[ミクロ] オートファジーによるリソソーム膜修復を介した老化抑制機構の解明	2023	2026
挑戦的研究 (萌芽)	第二生理学	教授	堀江 恭二	ヒト初期発生過程の再構成実験系の開発	2023	2024
挑戦的研究 (萌芽)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	蓄積データからのエビデンス創出に資するグレブナー基底を用いた革新的統計手法の開発	2024	2025
若手研究	寄附講座地域医療支援・教育学講座	学内講師 (寄附講座)	佐藤 慎哉	肝臓に対する Sulforaphane の抗腫瘍効果の検討	2018	2024
若手研究	第二生理学	助教	吉田 純子	順遺伝学で同定した新規遺伝子によるマウス・ヒトにおける神経分化制御機構の解明	2021	2024
若手研究	放射線診断・IVR 学	講師	岩越 真一	腹部大動脈瘤に対するステント内挿術後の MRI 画像における Radiomics 解析	2021	2025
若手研究	消化器内科学	学内講師	辻 裕樹	NASH におけるエンドトキシンの腸管内吸着を介した肝発癌抑制治療の開発	2021	2024
若手研究	第一生理学	助教	杉村 岳俊	視線保持に関与する神経積分器の神経ネットワーク基盤	2022	2024
若手研究	分子動態創薬共同研究講座	助教 (共同研究講座)	中西 真理	疾患関連 HLA 多型性の分子構造解析	2022	2024
若手研究	脳神経内科学	医員	塩田 智	神経難病におけるリポドレインに起因する細胞骨格とオートファジー異常の解明	2022	2024
若手研究	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	タンパク質の制御機構からみた ALS/FTD の病態解明	2022	2024
若手研究	精神医学	博士研究員	高橋 誠人	自閉スペクトラム症における文化的自己観の神経基盤	2022	2025
若手研究	寄附講座血栓止血分子病態学講座	講師 (寄附講座)	下西 成人	血栓症を呈した新規凝固第 V 因子異常症における抗凝回機能低下機序の解明	2022	2024
若手研究	小児科学	助教	中島 由翔	血友病 A 治療における高機能型第 FVIII 因子製剤の開発	2022	2024
若手研究	消化器内科学	医員	小川 裕之	Lenvatinib による門脈圧亢進抑制効果の検討	2022	2025
若手研究	消化器内科学	医員	石田 光志	アルコール性肝発癌の機序と Nr1f2 活性化による多面的発癌抑制作用の検討	2022	2024
若手研究	腎臓内科学	医員	西本 雅俊	近位尿管におけるネプリライシンの存在意義と急性・慢性の腎障害に対する予防効果	2022	2024
若手研究	臨床研修センター	助教	大西 智子	包括的凝固線溶解解析を基盤とする播種性血管内凝固と COVID-19 の治療戦略の構築	2022	2024
若手研究	中央内視鏡部	助教	岩佐 陽介	BRAF 変異大腸癌における CD200 発現の意義と CD200 抗体による治療法の開発	2022	2024
若手研究	分子病理学	博士研究員	西口 由希子	糖化 HMGB1 の消化器癌における役割の検討	2022	2024
若手研究	消化器・総合外科学	博士研究員	尾原 伸作	生体吸収性ステントによる消化管縫合不全の新規治療法開発を目指した基礎的研究	2022	2024
若手研究	消化器・総合外科学	博士研究員	中川 顕志	胆膵癌における治療抵抗性獲得機序の解明とその克服による新規集学的治療法の開発	2022	2024
若手研究	麻酔科学	学内講師	田中 暢洋	侵害受容刺激モニターによる手術侵襲度評価の妥当性・バイオマーカーを用いた検討	2022	2024
若手研究	脳神経外科学	博士研究員	森本 亮之	TIGIT ノックアウトヒト NK 細胞を用いた膠芽腫に対する新規治療法の開発	2022	2024
若手研究	地域医療学講座	特任助教	倉田 慎平	肩鎖関節脱臼における肩鎖、烏口鎖骨靭帯の生体力学的研究	2022	2025
若手研究	整形外科	助教	井上 和也	人工肩関節置換術後における有限要素法を用いた上腕骨応力変化の検討	2022	2024
若手研究	泌尿器科学	助教	後藤 大輔	低リノール酸環境マウスと LPA1 受容体ノックアウトマウスの下部尿路機能の変化	2022	2024
若手研究	産婦人科学	助教	杉本 澄美玲	漿液性卵巣癌における卵管採取癌病変の発癌機序解明	2022	2024
若手研究	法医学	助教	勇井 克也	敗血症性ショックにおける 2-AG による末梢循環の新規分子機構の解明	2022	2025

Winner Report

研究種目	教室名 (2024.5.1)	職名 (2024.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
若手研究	分子病理学	博士研究員	後藤 柱	中鎖脂肪酸を用いたがん性サルコペニア治療の臨床応用の検討	2022	2024
若手研究	整形外科	助教	塚本 真治	中間悪性度骨腫瘍に対する免疫チェックポイント分子発現を基盤とした新規治療戦略	2023	2025
若手研究	脳神経内科学	助教	江浦 信之	シングルセル解析による眼頭遠位型ミオパチーの分子病態解明の試み	2023	2024
若手研究	総合画像診断センター	助教	太地 良佑	イメージング質量分析を用いた LEN 先行 TACE の薬剤分評価と治療マーカーの探索	2023	2024
若手研究	小児科学	講師	石川 智朗	包括的血液凝固解析による小児特発性ネフローゼ症候群の血液凝固病態の解明	2023	2025
若手研究	循環器内科学	助教	妹尾 絢子	心臓 MRI を用いた心筋エントロピーの有用性；左室駆出率が保たれた心不全の予後予測	2023	2025
若手研究	がんゲノム・腫瘍内科学	学内講師	大田 正秀	癌幹細胞における免疫チェックポイント阻害剤耐性機構の解明	2023	2026
若手研究	呼吸器内科学	医員	藤岡 伸啓	脂肪由来間葉系幹細胞の多分化能を活用した COPD の新規治療戦略	2023	2025
若手研究	腎臓内科学	医員	孤杉 公啓	CKD-MBD における Osteoclast-associated receptor (OSCAR) の役割の検討	2023	2025
若手研究	皮膚科学	助教	西村 友紀	HHV-6 持続感染に着目した DIHS の病態解明および自己免疫疾患発症機序の解明	2023	2025
若手研究	感染症内科学	講師	今北 菜津子	病原体を考慮した敗血症性脳症のマウスモデルの確立と病態解明	2023	2026
若手研究	免疫学	助教	古川 龍太郎	呼吸器ウイルス感染症の発症および重症化における FOXO1 シグナル伝達経路の機能解明	2023	2025
若手研究	消化器・総合外科学	学内講師	横谷 倫世	トリプルネガティブ乳癌における CD70 発現の意義の解明と新規免疫療法の開発	2023	2025
若手研究	消化器・総合外科学	助教	中出 裕士	E3 ユビキチンリガーゼを介した胃癌進展機序の包括的解明と新規治療戦略の開発	2023	2025
若手研究	中央手術部	学内講師	位田 みつる	入院前のオレキシン受容体拮抗薬の投与が入院後の睡眠と術後回復に及ぼす影響	2023	2026
若手研究	脳神経外科学	学内講師	木次 将史	頸動脈プラークに対するスタチンはプラークを安定させるかー NIRS による分布の変化	2023	2024
若手研究	寄附講座地域医療支援・教育学講座	講師 (寄附講座)	川崎 佐智子	頸椎性脊髄症の痺れの可視化	2023	2027
若手研究	整形外科	学内講師	原 良太	関節リウマチに対する滑膜組織を用いた分子標的薬選択の最適化に関する研究	2023	2025
若手研究	泌尿器科学	助教	堀 俊太	腎移植におけるタクロリムス代謝・吸収と腸内細菌叢の関連解析	2023	2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	横田 尚弘	ラットを用いた骨導超音波知覚の解明と耳鳴に対する治療の基礎研究	2023	2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	阪上 雅治	多能性幹細胞から前庭有毛細胞の特異的分化誘導と培養前庭による細胞移植再生の試み	2023	2025
若手研究	救急医学	助教	浅井 英樹	市民による AED 等の一次救命処置を早期に実施させるための口頭指導法の確立	2023	2025
若手研究	公衆衛生学	博士研究員	次橋 幸男	在宅医療における多職種協働によるケアの実態把握とアウトカム評価	2023	2026
若手研究	公衆衛生学	講師	明神 大也	死亡票・死亡届票を用いたレセプトデータベースにおける死因確定ロジックの開発	2023	2025
若手研究	疫学・予防医学	講師	田井 義彬	住環境温湿度・皮膚温・脈拍変動の連続測定データを用いた高齢者熱中症予防法の開発	2023	2025
若手研究	糖尿病・内分泌内科学	助教	中島 拓紀	レセプトビッグデータを用いた機能性副腎腫瘍における骨粗鬆症、脆弱骨折の病態解明	2023	2025
若手研究	分子病理学	博士研究員	宮川 良博	がん性サルコペニアにおける中鎖脂肪酸とケトン体食の骨格筋保護作用の比較	2023	2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	塩崎 智之	平衡障害の分類によるテラーメイド前庭リハビリテーションの開発	2023	2025
若手研究	中央手術部	学内講師	高谷 恒範	新規発光刺激電極による半視野刺激誘発電位モニタリング装置の開発	2023	2025
若手研究	生化学	助教	志摩 喬之	細胞老化に伴うリソソームの変容及び破綻機構の解明	2024	2025
若手研究	発生・再生医学	助教	池田 宏輝	生体内における卵母細胞の転写、翻訳活性の分子制御機構の解明	2024	2026
若手研究	総合医療学	講師	大野 史郎	不明熱診療の質の改善のための診断アルゴリズムの作成とその実用性の検証	2024	2026
若手研究	放射線診断・IVR 学	博士研究員	山谷 裕哉	IVIM 解析を用いたステントグラフト内挿術後のエンドリークによる瘤拡大の予後予測	2024	2026
若手研究	小児科学	助教	古川 晶子	友友病 A 治療におけるインヒビター発生抑制を目指した分子細胞免疫学的解析	2024	2027
若手研究	血栓止血先端医学講座	助教	三谷 成二	幹細胞技術を用いた in vitro 肝臓洞モデルの構築と肝線維化・炎症病態の解明	2024	2026
若手研究	消化器内科学	助教	岩井 聡始	ミトコンドリア機能を標的とした NASH 関連サルコペニアの治療開発	2024	2026
若手研究	循環器内科学	医員	経堂 篤史	収縮能が保たれた心不全の機械学習分類と microRNA などの biomarker の探索	2024	2025
若手研究	集中治療部	助教	橋本 行弘	CMR parametric mapping を用いた急性大動脈解離の新規進展予測方法	2024	2025
若手研究	輸血部	講師	酒井 和哉	ADAMTS13 欠損患者の血栓症発症を修飾する血中プロテアーゼ活性及び腸内細菌叢	2024	2025
若手研究	消化器・総合外科学	助教	中村 広太	肺癌治療戦略選別を目的としたエクソソーム腫瘍遺伝子複合リキッドバイオプシーの開発	2024	2025
若手研究	消化器・総合外科学	学内講師	長井 美奈子	切除不能肺癌に対する新規血中バイオマーカーを用いた予後予測遺伝子パネルの開発	2024	2026
若手研究	救急医学	助教	奥田 哲教	脊髄損傷に対する骨格筋刺激装置併用ゲームを用いた新規リハビリテーション技術の開発	2024	2026
若手研究	泌尿器科学	助教	森澤 洋介	ラット膀胱における尿再吸収機構と膀胱時計遺伝子の成長に伴う変化の解明	2024	2026
若手研究	産婦人科学	助教	河原 直紀	卵巣明細胞癌における特異なエネルギー代謝に関する研究	2024	2026
若手研究	口腔外科学	助教	中村 泰士	口腔癌に対するセツキシマブ療法における ADCC 活性増強の試み	2024	2026
若手研究	口腔外科学	博士研究員	高橋 佑佳	味蕾および舌上皮の細胞増殖や維持・再生機構の解明	2024	2026
若手研究	口腔外科学	医員	中嶋 千恵	シンバイオティクスによるがん性サルコペニア抑制効果に関する研究	2024	2026
若手研究	組換え DNA 実験施設	博士研究員	西村 和樹	酸化的 DNA 損傷サイクロプリンは色素性乾皮症患者の脳に蓄積するか？	2024	2026
若手研究	脳神経外科学	助教	森崎 雄大	脳神経外科手術における筋電図付き胃管を用いた下位脳神経モニタリングの開発	2024	2028
研究活動スタート支援	脳神経内科学	助教	小林 正樹	後根神経節の長鎖ノンコーディング RNA を標的とした糖尿病末梢神経障害の治療開発	2023	2024
研究活動スタート支援	教育開発センター	研究助教	三須 政康	住血吸虫症の感染防御を目指した複数抗原型免疫の確立と横断的抗原探索	2023	2024
研究活動スタート支援	消化器・総合外科学	助教	中村 広太	切除可能肺癌予後予測を目的とした miRNA-ctDNA 複合リキッドバイオプシーの構築	2023	2024
研究活動スタート支援	救急医学	医員	木下 有紗	地理情報システムを用いた院外心肺停止に対する病院前医療の有効な地域の地図の作成	2023	2024
研究活動スタート支援	分子病理学	助教	緒方 瑠衣子	マイクロ RNA の標的化によるがん性サルコペニアの克服における基礎的研究	2023	2024
特別研究員奨励費	生化学	助教	志摩 喬之	リソファジーの新規評価系の開発及び分子機構の解明	2023	2024
特別研究員奨励費	発生・再生医学	学振特別研究員 (PD)	高島 友弥	卵巣オルガノイドを用いた卵巣予備能の形成機構の解明	2024	2026

大学院入試日程

令和6年度 秋入学 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	若干名	令和6年7月8日(月)～7月12日(金)	令和6年7月29日(月)	令和6年9月10日(火)

● 社会人※の入学も可能です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。

令和7年度 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	40	第一次募集 令和6年10月8日(火)～10月11日(金)	第一次募集 令和6年11月5日(火)	第一次募集 令和6年12月10日(火)
		第二次募集 令和7年1月7日(火)～1月10日(金)	第二次募集 令和7年1月27日(月)	第二次募集 令和7年3月4日(火)

● 社会人※の入学も可能です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。
 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。 ● 令和7年度秋入学の実施については未定です。
 ● 大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。

令和7年度 大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	5	第一次募集 令和6年10月8日(火)～10月11日(金)	第一次募集 令和6年11月5日(火)	第一次募集 令和6年12月10日(火)
		第二次募集 令和7年1月7日(火)～1月10日(金)	第二次募集 令和7年1月27日(月)	第二次募集 令和7年3月4日(火)

● 社会人※の入学も可能です。但し、令和7年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

令和7年度 大学院看護学研究科（博士前期課程）

コース	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学コース	5	第一次募集 令和6年7月18日(木)～7月25日(木)	第一次募集 令和6年8月19日(月)	第一次募集 令和6年9月10日(火)
助産学実践コース	5	第二次募集 令和6年10月17日(木)～10月24日(木)	第二次募集 令和6年12月2日(月)	第二次募集 令和6年12月10日(火)

● 社会人※の入学も可能です。ただし、令和7年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。
 ● 本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。
 ● 高度実践コース（クリティカルケア看護分野、がん看護分野）及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者とします。
 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
 ※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

令和7年度 大学院看護学研究科（博士後期課程）

分野	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
生涯発達看護学分野	2	第一次募集 令和6年7月18日(木)～7月25日(木)	第一次募集 令和6年8月19日(月)	第一次募集 令和6年9月10日(火)
療養・生活支援看護学分野		第二次募集 令和6年10月17日(木)～10月24日(木)	第二次募集 令和6年12月2日(月)	第二次募集 令和6年12月10日(火)

● 社会人※の入学も可能です。ただし、令和7年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。
 ● 本学大学院看護学研究科博士前期課程からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。
 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
 ※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

未来への飛躍基金だより

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご支援をいただき心から御礼申し上げます。皆様からのご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備、大学と社会のつながりへの支援等、幅広く活用させていただいております。

未来への飛躍基金への感謝 ＊リサーチ・クラークシップ海外実習（2023年度活動報告より）

未来への飛躍基金では、リサーチ・クラークシップ海外実習の宿泊費、交通費、実習費等の一部を助成しています。 ＊リサーチ・クラークシップとは医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究機関にて研究に参加することで、研究マインドを育てることを目的としています。

[University of Michigan Medical School](#)

医学科3年 和出 陽南

この度は研修先への渡航及び滞在において多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。「未来への飛躍」基金からのご支援のおかげで、普段の授業では得られない貴重な経験を行うことができました。リサーチ・クラークシップでは実験手技を学ぶことは勿論、それ以外にも様々な講演会やラボミーティングに参加することで、世界で活躍する研究者の研究やその議論を目の当たりにし衝撃を受けました。私は将来海外で研究することを視野に入れており、留学中に見た人達のようになることが将来のひとつの目標となりました。今回のリサクラで学び感じた多くのことを今後の研究活動に最大限活かせるように精進して参ります。2年生という早い段階から海外研究を体験できたのはご支援、サポートしていただいた関係者の方々のおかげです。心より感謝申し上げます。



ラボのメンバーと

[KU Leuven Campus Kulak Kortrijk](#)

医学科3年 平岡 崇秀

今回の実習を通して、研究者としてももちろん人間としても大きく成長することができました。「未来への飛躍」基金がなければ自分は海外で実習することはできなかったと思いますので、このような機会をいただけたことに本当に感謝しております。

今後、奈良だけでなく日本そして世界を代表するような医学研究者になるために今回の経験やご縁を活かしていこうと思います。



ラボのメンバーと

[National University of Singapore](#)

医学科3年 佐久間 隼人

基金に寄附をしていただいた皆様にお力添えいただいたおかげで、海外リサーチ・クラークシップという他大学では極めて稀で貴重な実習に参加することができました。深く感謝申し上げます。

この実習を通して、研究スキルの向上だけでなく、将来医療に参画する際に必要となる社会性を身に付ける一歩を踏み出すことができました。この貴重な経験を活かすべく、ここから残りの学生生活も、研究はもちろんのこと、医療全般に広く関心を持ち、医学の発展に貢献できるよう絶え間のない努力を続けていきます。本当にありがとうございました。



ラボメンバーと春節祝

[University of Leeds](#)

医学科3年 伊藤 晴加

海外派遣に伴い、多大なるご支援をいただきありがとうございました。円安の影響で特にイギリスの物価は高騰していましたが、ご援助いただいたおかげで、イギリス・リーズ大学にある最先端の機器が揃う研究施設で研究させていただくことができました。

現地では、実験だけでなく会議やセミナー等にも多数参加することができ、多くのことを得て帰国することができました。誠にありがとうございました。



実習先のポストと

寄附者銘板について

ご寄附いただいた方々への感謝の気持ちを込めて、顕彰制度を設けています。寄附額が 30 万円以上（複数回のご寄附をいただいた場合は合計額）の方々のご芳名を刻んだ銘板を附属病院 1 階に設置しています。

（ゴールドプレート）個人・法人 1 千万円以上

（シルバープレート）個人・法人 100 万円以上

（ブロンズプレート）個人 30 万円以上 / 法人 50 万円以上



寄附者ご芳名の銘板（附属病院 1 階）

紺綬褒章について

紺綬褒章は国の褒章制度の一つで、公益のために私財（個人で 500 万円以上、団体で 1 千万円以上）を寄附された方に授与される褒章です。あらかじめお申し出いただいた分納によるご寄附も含まれます。

未来への飛躍基金にご寄附をいただき「紺綬褒章」申請を希望される方について、本学から推薦させていただいております。詳しくは総務広報課までお問合せください。



紺綬褒章（褒章・章記）

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL : 0744-22-3051（内線 2803） E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和 6 年 4 月～令和 6 年 6 月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

沢田 泉 様

◆30万円以上100万円未満

田畑 尚一 様 松村 圭祐 様 渡邊 愛子 様
渡邊 巖 様

◆10万円以上30万円未満

宮尾 孝治 様

掲載を希望されない寄附者様 3 名

◆10万円未満

掲載を希望されない寄附者様 5 名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

赤澤 英樹 様 池田 久佳 様 嘉田 雅彦 様
川崎佐智子 様 福住 明夫 様

編集後記

皆様のご協力により第 89 号学報を発行することができました。ご協力、ご支援いただいたみなさまに深く感謝いたします。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています、記事掲載を希望される方は総務広報課までご連絡ください。



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2024年 5月6日	NHK 奈良 ニュース	理事長・学長 細井 裕司	奈良県立医大で発見「軟骨伝導」研究成果 音楽関係者が選ぶ賞を受賞
5月9日	奈良テレビ ゆうドキッ!	産婦人科学	高度な不妊治療対応へ 県立医大附属病院 「高度生殖医療センター」開設
5月9日	NHK 奈良 ならナビ		
5月10日	奈良新聞・毎日新聞・読売新聞・産経新聞	県民健康増進支援センター	年齢や婚姻状況で異なる、「世帯の人数」と心理的苦痛の関係 「第三の聴覚経路」大阪万博パソナパビリオン「軟骨伝導」を活用 高度な不妊治療対応へ 県立医大附属病院 「高度生殖医療センター」開設
5月10日	@ DIME		
5月15日	奈良新聞	産婦人科学	年齢や婚姻状況で異なる、「世帯の人数」と心理的苦痛の関係 関西発「聞こえる技術」万博に 奈良県立医大で発見「軟骨伝導イヤホン」
5月15日	朝日新聞		
5月21日	Care Net	県民健康増進支援センター	奈良県立医大ベンチャー企業 難病の新薬開発へ共同研究
5月24日	朝日新聞	未来基礎医学 脳神経内科学	
5月24日	NHK 奈良 ならナビ	脳神経内科学 未来基礎医学	薬開発の技術確立へ 県立医科大と医大発ベンチャー 共同研究講座を設置
5月25日	奈良新聞		
5月26日	読売新聞	公衆衛生学	移植 苦渋の断念 3大学病院 移植医療の逼迫についてコメント 機能的表示食品を考える(上) 始まりは規制緩和 機能的表示食品を考える(下) 被害防止のために 意図せず体動くチック どう対応 業や行動療法で抑える チックの症状に関する相談へのアドバイス
5月30日	中日新聞	公衆衛生学	
5月31日	中日新聞	公衆衛生学	難病 ALS の治療薬開発を目指すベンチャー企業「モルミル」 チックの症状に関する相談へのアドバイス
6月1日	読売新聞 教えて!ヨミドック	精神医学	
6月1日	読売新聞 夕刊 からだの質問箱	精神医学	いまからやるべき熱中症対策 奈良県立医大の医師に聞く
6月4日	産経新聞	未来基礎医学	
6月14日	読売新聞 夕刊	精神医学	附属病院長 吉川 公彦 教 授 笠原 正登 教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則
6月20日	NHK 奈良 ならナビ	救急医学	
7月1日	毎日放送 よんちゃんTV	臨床研究センター 化学	備蓄・緊急投与が可能な人赤血球製剤の製造および、 第一相臨床試験を奈良県立医科大学附属病院で実施
7月1日	NHK 奈良 ならナビ		
7月2日	TBS THE TIME	血液内科学	機能的表示食品の健康被害で業者に報告義務 消費者委員会、岸田首相へ答申
7月3日	奈良テレビ TVN ニュース		
7月3日	奈良テレビ ゆうドキッ!	公衆衛生学	
7月8日	TBS ひるおび!		
7月16日	共同通信	公衆衛生学	
7月16日	NHK ニュース		
7月16日	産経新聞 Web		
7月18日	メディアファックス		

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

Laurel i+
YAMATOYAGI

FIRST CLASS

日常がある。叶わない。ここでしか、

駅前約10mに新築分譲マンション誕生。

ローレルアイ大和八木

近鉄大和線 近鉄扇原駅
《特急停車駅》※1
「大和八木」
駅徒歩 **1分**

VRモデルルーム公開
〈予約制〉

お問い合わせ
0120-426-191 営業時間
午前10時～午後6時
(毎週水・木・第3火曜日定休)

ローレルアイ大和八木 検索

人と街の可能性を拓く。
近鉄不動産 (専業主)

完成予想図
※掲載の完成予想図は2023年2月に撮影したものに一部CG加工を施し、外観完成予想図を合成したもので実際とは異なります。周辺環境は将来に渡って保証されるものではありません。※掲載の完成予想図は計画段階の図面に基いて描いたもので、モデル等は実際とは異なる場合があります。また、監督官庁の指導、施工上の都合等により建物の形状・仕様・色調・備品等に変更が生じる場合があります。外構形状の細部、設備・仕様等は表示していません。※当モデルの建物の形状および駅・バスとの位置関係等を分かりやすく表示するために、周辺建物・駅・電柱・道路線等について一部省略や歪み等で表示しております。※徒歩表示については、80mを1分として算出(端数切り上げ)したものです。※1一部の列車を除く。詳しくはホームページ(https://www.kintetsu-re.co.jp/mansion_kansai_nara_yamatoyagi/)をご覧ください。

このページに広告を掲載しませんか? くわしくはこちら→ <http://www.narmed-u.ac.jp/university/gaiyo/shokai/gakuho/index.html>

学報バックナンバーは Web サイト上でもご覧いただけます。(https://www.narmed-u.ac.jp/university/gaiyo/shokai/gakuho.html)